

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

臨床検査技術学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	血液学	2	滝 智彦	医師（平成元年医師免許取得）として、および日本血液学会認定血液専門医（平成14年4月1日～）として、病院および医療機関において血液疾患に関する診療を行った経験を有する。（平成30年3月まで）	学生は血液の成分とその機能、および産生から崩壊までのメカニズムを学ぶ。これらは次に学ぶさまざまな血液疾患の基礎となるものだが、正常機能の破綻による具体的な血液疾患について知ることによってその理解をより深いものにすることができる。教員が実際に経験した血液疾患症例の内容を含めることにより、臨床検査学を学び始めたばかりの学生にとってより興味を引きつける授業内容とする。
2	免疫学	2	田口 晴彦	「ケニア共和国感染症研究対策プロジェクト」「カンボジア王国母子保健プロジェクト」に感染症専門家として参加した経験を有する。	政府開発援助に感染症専門家として従事した経験を生かし、感染免疫の理論とその実際、およびケーススタディを授業に盛り込み教授する。
3	生理機能検査学Ⅰ	2	中島 哲	実務経験38年。生理機能検査全般に従事し、生理検査室のみならず救命救急センター、ICU、HCU、NICU、心臓カテーテル室、手術室において心電図、超音波、脳死、心カテポログラフ、誘発電位等の検査に従事した経験を有する。	心電図・脈管の循環器検査は、実症例を提示して、心電図の成り立ち、循環動態の基礎から波形異常のメカニズムを教授する。また、緊急性を要する症例や負荷検査における禁忌の理由など実臨床に即した講義をする。呼吸機能検査、血液ガス分析検査は実症例の典型例を用い、波形、測定値から疾患を読み解く講義をする。
4	生理機能検査学Ⅱ	2	中島 哲	実務経験38年。生理機能検査全般に従事し、生理検査室のみならず救命救急センター、ICU、HCU、NICU、心臓カテーテル室、手術室において心電図、超音波、脳死、心カテポログラフ、誘発電位等の検査に従事した経験を有する。	脳波検査は正常波形と異常波形の違いを実症例を用い教授する。また、脳死判定の際に行う脳波検査ならびに聴性脳幹誘発電位検査は測定方法、注意点、評価法を講義する。神経伝導速度検査は異常波が生じるメカニズムについて、超音波検査は実症例を用い、各臓器の役割、超音波画像が作られる原理、m-モード法、各ドブラ法（パルス、連続波、カラー、パワー、組織）アーチファクトについて講義する。
5	生理機能検査学実習	2	中島 哲	実務経験38年。生理機能検査全般に従事し、生理検査室のみならず救命救急センター、ICU、HCU、NICU、心臓カテーテル室、手術室において心電図、超音波、脳死、心カテポログラフ、誘発電位等の検査に従事した経験を有する。	心電図、脈波、脳波、神経伝導速度、眼底カメラ、呼吸機能、超音波（心臓・腹部）の各検査は実際の病院で実施されている測定方法を用い、臨床的意義、測定結果の評価法、正常画像と解剖の関連性、各検査のアーチファクトの実際を実習で教授する。
6	生理機能検査学Ⅲ	2	中島 哲	実務経験38年。生理機能検査全般に従事し、生理検査室のみならず救命救急センター、ICU、HCU、NICU、心臓カテーテル室、手術室において心電図、超音波、脳死、心カテポログラフ、誘発電位等の検査に従事した経験を有する。	超音波検査は腹部、心臓、消化管、乳腺、甲状腺、骨盤腔内、血管の全領域の正常画像と解剖の関連性を教授する。異常例は実症例の超音波画像を判読し、疾患を理解させる講義をする。眼底カメラ、聴力、平衡機能は実症例を用い、測定方法、注意点、結果の解釈の仕方、重症度評価法を講義する。
7	臨床遺伝学	1	滝 智彦	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会共同認定臨床遺伝専門医（平成20年12月1日～現在、平成26年4月1日～指導医）として、遺伝カウンセリングを含む遺伝医療を行った経験を有する。	臨床遺伝学において、学生は幅広い領域の遺伝医療の基礎から臨床までを学ぶ。臨床遺伝専門医として関わった遺伝医療における具体的な事例をできる限り授業内容に含め、そこで行われた遺伝カウンセリングや遺伝学的検査などがそのプロセスも含めて現実感のあるものとして理解できるように教授する。
8	病理学各論	2	島田 厚良	京都大学病院と長崎大学病院およびその関連病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、コロンビア大学病院にて、計8,000件程度の生検・手術検体の病理組織診断を行った経験を有する。主たる診断名は胃癌、大腸癌、肺癌、子宮癌、乳癌、食道炎、胃炎、腸炎、肝炎、胆嚢炎、子宮筋腫、前立腺肥大、星細胞腫、乏突起膠腫、膠芽腫、上衣腫、髄膜腫、悪性リンパ腫、ヒルシュスプルング病、二分脊椎、筋ジストロフィー、先天性ミオパチーなど	主要臓器の病理組織学を解説するに当たり、自らが経験してきた症例の病理組織標本を自ら撮影した顕微鏡写真を教材として用いている。病理医が顕微鏡像のどこに着目し、どのような臨床推論を行って病理組織診断へと至るのかを学生に解説する。
9	病理検査学実習	2	大河戸 光章	大学病院、検査企業において病理組織検査及び細胞診検査に従事した経験を有する。	病理検査業務は病理医と一緒に行われるが、臨床検査技師としてどのような連携が大切なのか、チーム医療として果たせる役割を踏まえながら病理標本作製の薄切や染色に対して何故？どうして？を理解してもらえるよう具体例を挙げながら講義している。また、病理検査室の中で細胞診検査がどのような役割を果たしているのかを細胞診検体の染色を通して理解してもらえるよう実習を行っている。
10	細胞診断学	2	郡 秀一	病院および検査企業の病理細胞診検査室において標本作製および細胞診断の経験を有する。	子宮頸部、呼吸器、泌尿器、体腔液の細胞診断学分野において、検査の現場でよく遭遇する疾患の細胞像を供覧し、どのような状態の患者から得られる細胞であるかを講義する。また、細胞診断を行うにあたってどのような手順を踏んで検査が行われるか、どのような細胞像を観察することで診断に至るかを実践的に講義する。
11	細胞診断学実習	1	郡 秀一	病院および検査企業の病理細胞診検査室において標本作製および細胞診断の経験を有する。	液状検体の処理方法および標本作製において、一般的な検査室の現場と同等の手法を用いて、実践的な実習を行う。また、細胞診断においてはブラインド標本を用いて、細胞診断を行い、検査データが臨床サイドにおいてどのような扱われ方をするかを実習する。
12	血液検査学	2	滝 智彦	医師（平成元年医師免許取得）として、および日本血液学会認定血液専門医（平成14年4月1日～）として、病院および医療機関において血液疾患に関する診療を行った経験を有する。（平成30年3月まで）	学生は血液疾患診断のための検査と病態解析に必要な知識について学習する。その際に、医師が患者のどのような臨床情報に基づいて各種検査を計画・依頼し、その結果に基づいてどのように診断し、治療法を選択していくかという検査前から検査後までのプロセスを教員の経験を含めて教授することによって、各種血液検査を実臨床の中の生きた検査として理解できるものにする。
13	血液検査学実習	2	滝 智彦	医師（平成元年医師免許取得）として、および日本血液学会認定血液専門医（平成14年4月1日～）として、病院および医療機関において血液疾患に関する診療を行った経験を有する。（平成30年3月まで）	学生は血液検査学で学んだ知識を基に、実習を通して各種検査の原理や方法を確実に身につける。その際に、臨床検査技師が担当する血液検査が、検査法選択から実際の採血、骨髄穿刺などの検査前プロセス、検査結果の報告とその活用などの検査後プロセスを含めた総合的な検査の一部を成すものであることを、医師としての実務経験に基づいて教授する。
14	輸血・移植検査学	2	三島 由祐子	病院の輸血検査（輸血前検査・移植関連検査）一般検査（尿検査・髄液検査等）、採血業務に携わった経験を有する。	基本的な輸血・移植検査に関わる知識から実務経験を通じて得た特殊な血液型や交差適合試験不適合例など臨床の現場で遭遇する症例も合わせて示し、同定のために必要な検査の知識や考え方を習得することを旨とする。

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

臨床検査技術学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
15	免疫検査学実習	1	田口 晴彦	「ケニア共和国感染症研究対策プロジェクト」「カンボジア王国母子保健プロジェクト」に感染症専門家として参加した経験を有する。	政府開発援助に感染症専門家として従事した経験を生かし、感染免疫の理論とその実際、およびケーススタディを授業に盛り込み教授する。
16	輸血検査学実習	1	三島 由祐子	病院の輸血検査（輸血前検査・移植関連検査）一般検査（尿検査・髄液検査等）、採血業務に携わった経験を有する。	実際の現場で実施する輸血前検査を実習し、各検査の手技と輸血供給までの流れを習得する。血液型検査でオモテ・ウラ不一致になった場合、不規則抗体が陽性になった場合の追加検査や対応など、実検体で経験し、知識を深める。
17	臨床病態学	2	渡部 和彦	現在医師として一般内科、神経内科勤務。臨床病理学、臨床神経病理学検査診断業務経験を有する。死体解剖資格を有する。	内科・神経内科臨床勤務医および病理検査診断業務医の経験を生かして、内科・神経内科病態学・検査診断学の講義を行っている。
18	臨床検査学特論（アドバンスドクラス） 病理組織検査技術	1	島田 厚良	京都大学病院と長崎大学病院およびその関連病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、コロンビア大学病院にて、計8,000件程度の生検・手術検体の病理組織診断を行った経験を有する。主たる診断名は胃癌、大腸癌、肺癌、子宮癌、乳癌、食道炎、胃炎、腸炎、肝炎、胆嚢炎、子宮筋腫、前立腺肥大、星細胞腫、乏突起膠腫、膠芽腫、上衣腫、髄膜腫、悪性リンパ腫、ヒルシュスプルング病、二分脊椎、筋ジストロフィー、先天性ミオパチーなど	「病理検査学実習」ではカバーし切れなかった脳・脊髄の病理組織学を講義するに当たり、自らが経験してきた症例の病理組織標本を用いて、ディスカッション顕微鏡にて学生と共に鏡検する。神経系ならではの病理組織所見の取り方を、コロンビア大学での実務経験を通して自らが受けて来た米国流トレーニングの手法を用い、テュートリアル形式で解説する。
19	臨床検査学特論（アドバンスドクラス） 輸血検査技術	1	三島 由祐子	病院の輸血検査（輸血前検査・移植関連検査）一般検査（尿検査・髄液検査等）、採血業務に携わった経験を有する。	輸血検査学実習の内容を踏まえ、さらに同定が難しい症例や、臨床で実際遭遇するような検査の限界を経験し、各検査の重要性を知る。また、これらの特殊な検査結果の報告の仕方を学び、輸血部門での臨床検査技師の役割を理解する。
20	婦人科細胞診断学演習	1	旗 ひろみ	大学病院、検査企業において病理組織検査及び細胞診検査に従事した経験を有する。	検体は患者様そのものであるという原点に戻ってスクリーニングが出来るように講義・実習を進めている。カルテに記載された情報を読み取るなど独りよがりにならず、悪性細胞を拾いあげるだけに集中せず、常に患者様に寄り添える検査が出来るように進めている。
21	呼吸器細胞診断学演習	1	旗 ひろみ	大学病院、検査企業において病理組織検査及び細胞診検査に従事した経験を有する。	検査センターや院内における喀痰、気管支洗浄などの呼吸器系の検体処理法、手順の違いなどを理解してもらいながら、検体採取から患者様の情報を読み取りスクリーニングに活かすことの大切さを講義している。また、感染症対策についても理解を深めてもらえるよう講義している。
22	生命倫理学	1	角田ますみ	病院や在宅医療において医療職としての勤務経験があり、現在も、各病院や介護施設、行政、他大学などで生命倫理学講義や研修を実施している。また病院や介護施設と組んで倫理的問題解決方法の研究を行っている。	延命治療や尊厳死など人生の最終段階における意思決定や医療や介護現場で生じる様々な倫理的問題を幅広く扱い、人生の様々な場面における倫理的問題について考えることができるようになることを目的とする。自分自身の資質や価値観を見いだす時に参考になる枠組みやツールについて教授し、倫理的問題やジレンマに遭遇した時の対処能力を養う。

合計単位数 35

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

健康福祉学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	基礎生物学	1	関澤 浩一	企業において、ヒト核型分析（染色体検査）の業務に付した経験を有する。 ヒト末梢血Tリンパ球や羊水細胞（出生前検査）の細胞培養、それらの核型分析、また、得られた結果と臨床症状から疾患を特定し、その遺伝様式や次子への影響を考察するといった経験がある。	これらの経験は、授業項目の中の、特に細胞の構造と働き、細胞の種類・性質・増殖、生殖細胞、体細胞分裂、減数分裂などや、メンデルの法則、性と遺伝などの教授の際に活かされている。
2	公衆衛生学Ⅰ	2	岡本 博照	①疫学研究、②地域保健活動（三鷹市中高年の運動相談）、③内科医として生活習慣病のほか不安症や心身症等の診療に従事、④産業医としてメンタルヘルス不調者への対応を含めた産業医業務に従事した経験を有する。	左記の実務経験を活かして、人口保健統計、地域保健、精神保健等を解説し、それぞれの分野での問題点も取り上げ、実務経験を授業内容に反映させた授業を行っている。
3	小児疾患の病態学	2	岡本 博照	①救急医（小児科医の監督下で小児診療の初療を担当）、②内科医（思春期生徒の診療）、③学校医として学校保健に従事した経験を有する。	左記の実務経験を活かして、小児期の疾患の解説だけでなく、学校保健における小児疾患の問題点や注意点を取り上げるなど、実務経験を授業内容に反映させた授業を行っている。
4	保健栄養学	2	大久 朋子	病院管理栄養士（入院患者の栄養管理、病態に応じた献立の作成、栄養食事指導、NSTや褥瘡等でのチーム医療の実践など）としての勤務経験を有する。	エビデンスに基づいた栄養学を、実際に担当した具体的事例を挙げ講義する。
5	高齢保健学	2	岡本 博照	内科医として次の業務に従事した経験を有する。 ①療養型病院の勤務、②介護老人保健施設と介護老人福祉施設での非常勤勤務、③市中病院での高齢者外来診療	左記の実務経験を活かして、高齢者の疾患の解説だけでなく、高齢者介護での問題点や注意点を取り上げるなど、実務経験を授業内容に反映させた授業を行っている。
6	学校保健学Ⅱ	2	荻津 真理子	公立小中学校養護教諭として30年間勤務した経験を有する。	健康教育や学校環境衛生・学校安全・組織活動等の理論と、授業者が学校現場で行ってきた具体的な実践事例を結び付け、学校保健活動についての理解を深める。
7	学校看護学	1	荻津 真理子	公立小中学校養護教諭として30年間勤務した経験を有する。	学校現場で特に多い傷病を中心に、校内救急体制なども含め、学校ならではの対応についての講義・実習を行う。
8	健康相談Ⅰ	2	荻津 真理子	公立小中学校養護教諭として30年間勤務した経験を有する。	具体的な事例等を用い、児童生徒に多い疾病を学校でどのように管理するか、学校現場での養護教諭の働きが具体的にイメージできるようにする。
9	健康相談Ⅱ	1	荻津 真理子	公立小中学校養護教諭として30年間勤務した経験を有する。	事例等を通し、学校現場で子どもをどのように見て、具体的にどのように動けば子どもを支援していけるかを考える。
10	産業保健学	2	岡本 博照	①救急医として職業性疾病（外傷や中毒）を診療、②内科医として職業性疾病を診療、③産業医として労働衛生3管理のほか復職面談や高ストレス者面談等に従事	左記の実務経験を活かして、産業保健で問題となる職業性疾病や作業関連疾患を解説し、労働者の健康管理の注意点を取り上げるなど、実務経験を授業内容に反映させた授業を行っている。
11	労働衛生法規Ⅰ	2	岡本 博照	産業医として企業等に非常勤勤務経験を有する。	左記の実務経験を活かし、産業保健の根拠法である労働安全衛生法やじん肺法などの解説を行っている。
12	特別講義Ⅰ	2	張替 克美	公立特別支援学校教諭、公立中学校教諭、公立小学校教頭、公立特別支援学校校長、公立小学校校長として勤務した経験を有する。	公立学校の教頭として学校運営全般にわたる職務、校長として学校経営に関する職務の経験を生かし、現代の子どもの健康問題や教育課題、我が国および自治体毎の教育の動向を幅広く調べて、学校とは、教育とは、養護教諭・一般教諭の役割とはなど自由に話し合い、協働での学習を通じて視野を広げる。学生同士の主体的な取り組みを通して自身の資質・能力・適性を振り返り、将来の姿を展望し、専門職としてのキャリアデザインを描く。
13	特別講義Ⅱ	2	張替 克美	公立特別支援学校教諭、公立中学校教諭、公立小学校教頭、公立特別支援学校校長、公立小学校校長として勤務した経験を有する。	公立学校の教頭として学校運営全般にわたる職務、校長として学校経営に関する職務の経験を生かし、現代の子どもの健康問題や教育課題、我が国および自治体毎の教育の動向を幅広く調べて、学校とは、教育とは、養護教諭・一般教諭の役割とはなど自由に話し合い、協働での学習を通じて視野を広げる。学生同士の主体的な取り組みを通して自身の資質・能力・適性を振り返り、将来の姿を展望し、専門職としてのキャリアデザインを描き、目標達成のために必要な専門的知識や能力を身に付ける。

合計単位数 23

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

臨床工学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	画像診断技術	2	鈴木 哲治	臨床工学技士として病院にて勤務経験を有する。	カテーテル検査室や手術室での業務において、診療補助のためにレントゲン画像や超音波画像などを読み解くポイントを生かして講義を実施する。
2	医用電気工学	2	福長 一義	研究センターでの医用機器研究開発に従事した経験を有する。	人工心臓駆動回路の研究開発経験をもとに、医用に用いられている電気工学について講義する。
3	医用機器学概論	2	福長 一義	研究センターでの医用機器研究開発に従事した経験を有する。	人工心臓、人工肺の研究開発経験をもとに、医用機器の原理、構造について講義する。
4	生体機能代行装置学概論	2	福長 一義	研究センターでの医用機器研究開発に従事した経験を有する。	人工心臓、人工肺の研究開発経験をもとに、生体機能代行装置の原理、構造について講義する。
5	呼吸関連機器学	2	菊田 雅宏	研究開発法人国立がん研究センター中央病院にて臨床工学技士として勤務した経験を有する。人工呼吸器や麻酔器、その他医療機器の保守、点検、管理、運用、操作を経験した。	実務経験を踏まえた人工呼吸器を取り扱ううえで必要な呼吸生理や血液ガス分析データの解釈、人工呼吸器の原理や構造、警報への対処方法など、臨床工学技士として臨床の現場で即応できる知識と技術の修得を目的とする講義を行う。さらに、酸素療法や高気圧酸素療法(HBO)、麻酔器についても実例を紹介しつつ講義を行う。
6	呼吸関連機器学実習	1	菊田 雅宏	研究開発法人国立がん研究センター中央病院にて臨床工学技士として勤務した経験を有する。人工呼吸器や麻酔器、その他医療機器の保守、点検、管理、運用、操作を経験した。	酸素療法や人工呼吸器、麻酔器の構造や各種モードの意味、警報への対処方法などを実際に臨床現場で使用されている機器を用いて、臨床工学技士として病院で即応できる知識と技術の修得を目的とする実習を行う。
7	体外循環機器学	2	中村 淳史	順天堂大学医学部附属順天堂医院において人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、その他ME機器の臨床業務に従事した経験を有する。	テキストや教科書の項目順でなく、人工心肺装置、補助循環装置の基礎から応用までを臨床に即した形で講義を行っている。
8	体外循環機器学実習	1	中村 淳史	順天堂大学医学部附属順天堂医院において人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、その他ME機器の臨床業務に従事した経験を有する。	人工心肺装置や補助循環に関して、患者の血行動態を模擬できるシミュレータを用いて機器の操作を行い、具体的に臨床での使用方法について理解できるような実習としている。
9	医用機器安全管理学Ⅰ	2	鈴木 哲治	臨床工学技士として病院にて勤務経験を有する。	病院での医療機器管理の業務において、適切な使用方法と管理を行っていた経験をもとに、安全管理学について講義を行う。
10	医用機器安全管理学Ⅱ	2	鈴木 哲治	臨床工学技士として病院にて勤務経験を有する。	病院での医療機器管理の業務において、適切な使用方法と管理を行っていた経験をもとに、安全管理学について講義を行う。
11	臨床医学各論Ⅲ	2	四倉 正之	昭和54年4月から現在まで医学部付属病院等で内科および循環器内科の診療に従事している。	循環器病学と呼吸器病学を臨床実地経験をもとに症例検討などを加えて講義する。
12	血液浄化装置学	2	須田 健二	杏林大学付属病院にて臨床工学技士業務を合計17年の経験を有する。(ME室、集中治療室、中央手術室、周産期母子医療センター、高気圧酸素療法室、一般病棟(内科・外科)など(7年) 高度救命救急センター、熱傷センター(6年) 腎・透析センター(4年)	血液浄化装置は厚生労働大臣が指定する高度管理医療機器、特定保守管理医療機器の1つである。また、血液浄化療法は臨床工学技士業務の中でも、最も施行頻度が高いため、症例に対応した的確な知識と、装置の正確な操作が求められる。この授業では臨床現場で即応できる知識を習得するために、教科書で基礎を学びつつ、臨床現場で得た経験をもとに実践的な知識を学ぶ。本授業により現場感覚のスキルを習得する。
13	応用血液浄化装置学	2	須田 健二	杏林大学付属病院にて臨床工学技士業務を合計17年の経験を有する。(ME室、集中治療室、中央手術室、周産期母子医療センター、高気圧酸素療法室、一般病棟(内科・外科)など(7年) 高度救命救急センター、熱傷センター(6年) 腎・透析センター(4年)	血液浄化装置学で学んだ知識をもとに、血液浄化療法の適応疾患に関する症例検討を行いながら、病態と症状、バイタルサイン、臨床データとの関連性を学び、最適な血液浄化法を選択することができる知識を養うことを目標とする。また、課題に対する解答は全てプレゼンテーション形式で発表を行う。臨床経験のある医師と臨床工学技士によりプレゼンテーションの評価と指導を行い、確かな専門知識と技術を統合し、実践的な実務能力を持って問題を解決する能力を習得する。
14	血液浄化装置学実習	1	須田 健二	杏林大学付属病院にて臨床工学技士業務を合計17年の経験を有する。(ME室、集中治療室、中央手術室、周産期母子医療センター、高気圧酸素療法室、一般病棟(内科・外科)など(7年) 高度救命救急センター、熱傷センター(6年) 腎・透析センター(4年)	この実習では主に血液透析に関連した実習を行う。臨床現場で即応できる知識と技術を習得するために、実習で使用する透析用患者監視装置は、全て臨床現場で使用している装置を使用する。臨床経験のある臨床工学技士の指導のもと、血液透析療法の適応疾患に関する症例検討を行いながら、治療モードの選択、最適な人工腎臓の選択、血液回路や装置の準備、最適な設定入力など、血液透析療法に必要な一連の業務を習得する。
15	生体機能代行装置学基礎実習	1	須田 健二	杏林大学付属病院にて臨床工学技士業務を合計17年の経験を有する。(ME室、集中治療室、中央手術室、周産期母子医療センター、高気圧酸素療法室、一般病棟(内科・外科)など(7年) 高度救命救急センター、熱傷センター(6年) 腎・透析センター(4年)	この実習では主にアフェレーシス療法に関連した実習を行う。臨床現場で即応できる知識と技術を習得するために、実習で使用するアフェレーシス装置は、全て臨床現場で使用している装置を使用する。臨床経験のある臨床工学技士の指導のもと、アフェレーシス療法の適応疾患に関する症例検討を行いながら、治療モードの選択、最適な血液浄化器の選択、血液回路や装置の準備、最適な設定入力など、アフェレーシス療法に必要な一連の業務を習得する。

合計単位数 26

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

救急救命学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 ※200文字以内
1	プレホスピタル救急英会話Ⅰ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	一般的な英会話の授業ではなく、シミュレーションで実際に使っている救急資器材を活用し、また現場で使う救急英会話を中心に実践的な授業形式としている。プレホスピタル救急英会話Ⅰは内因性・外因性の軽症傷病者を対象にした内容としている。
2	プレホスピタル救急英会話Ⅱ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	一般的な英会話の授業ではなく、シミュレーションで実際に使っている救急資器材を活用し、また現場で使う救急英会話を中心に実践的な授業形式としている。プレホスピタル救急英会話Ⅱは内因性・外因性の中等症以上の傷病者を対象にした内容としている。
3	内科学Ⅰ	2	堀渕 志徳里	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として勤務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来経験を有する。	循環器系疾患に対する診断・検査・治療の経験をもとに、循環器系の解剖生理、および心不全、不整脈、虚血性心疾患の病態・治療について解説する。さらに、主要な循環器系疾患の病因、病態、徴候、診断、治療等について教授する。
4	内科学Ⅴ	2	五十嵐 昂	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として入院・外来診療実務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来診療経験を有する。	内科系疾患に対する診断・治療等の経験をもとに、病院前救護の中で重要な内科系疾患について、重点的に疾患の病因、病態生理、検査方法、治療の概要と病院前救護における観察・判断と処置、搬送方法の要点を教授する。
5	内科学Ⅵ	2	堀渕 志徳里	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として勤務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来経験を有する。	内科系疾患に対する診断・治療等の経験をもとに、病院前救護の中で重要な内科系疾患について、重点的に疾患の病因、病態生理、検査方法、治療の概要と病院前救護における観察・判断と処置、搬送方法の要点を教授する。
6	救急処置総論	2	五十嵐 昂	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として入院・外来診療実務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来診療経験を有する。	救急傷病者の診療実務経験をもとに、病院前救護における傷病者の全身観察、局所観察の意義とその方法について要点を教授し、具体的事例について検討する。
7	救急処置各論	2	官方 基行	高度救命救急センター、基幹病院の救命救急センターにおいて、医師として入院・外来診療実務経験を有する。	救急傷病者の診療実務経験をもとに、病院前救護において救急救命士に許された特定行為(気管挿管、薬剤投与)、除細動及び拡大処置2行為について理論と実際を教授する。
8	外科学	2	松岡 弘芳	医学部付属病院にて外科診療(消化器外科系)に従事した経験を有する。	外科診療における救命救急疾患(特に腹部救急疾患)の疫学、症候、診断、治療、手術方法などについて解説する。
9	外傷学	2	井上 孝隆	高度救命救急センター、基幹病院の救命救急センターおよび急性期総合病院において、医師として入院・外来診療実務経験を有する。	救命救急センターでの診療実務経験をもとに、外傷傷病者に対する病院前救護のあり方について教授する。さらに各部位外傷に関して、病態生理、症状、救急処置、観察の方法と意義、治療法などについて教授する。
10	環境障害・急性中毒Ⅰ	2	堀渕 志徳里	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として勤務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来経験を有する。	高度救命救急センターでの経験をもとに、様々な状況下で発生する環境障害に関してその病因、病態生理、検査方法、治療の概要と病院前救護における観察・判断と処置、搬送方法の要点を教授する。
11	環境障害・急性中毒Ⅱ	2	井上 孝隆	高度救命救急センター、基幹病院の救命救急センターおよび急性期総合病院において、医師として入院・外来診療実務経験を有する。	救命救急センターでの診療実務経験をもとに、様々な状況下で発生する急性中毒に関してその病因、病態生理、検査方法、治療の概要と病院前救護における観察・判断と処置、搬送方法の要点を教授する。
12	救急搬送論	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった。	消防大学校等での救急救命士の養成経験を活かし、救急救命士に必要な知識を習得させる。最初に、消防職について理解し、その上で救急救命士として現場で活動するために必要な知識を習得する。また、救急活動の実務的な面から規定などを漠然と覚えることを目的とはせず、将来発生する課題などにも対応できるように施策的な面も学び、救急活動の実際を理解する。
13	精神医学	2	森 数美	・杏林大学医学部付属病院高度救命救急センターにて救急医療、以後同精神神経科にて精神科医療に従事した経験を有する。 ・平成15年9月から1年間、インド・バングラデシュにて海外研修に参加した経験を有する。	・身体科を経験した精神科医として、救急医療現場の自殺企図患者への診療経験から、身体と精神の両面における健康支援の重要性を伝える。 ・海外研修において、発展途上国における地域精神医療を経験した観点から、グローバルな視点のもとに、心身共なる健康の概念を多角的に捉える姿勢も、養っていききたい。
14	シミュレーションⅠ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅠでは、救急救命士が行う応急処置のうち観察、判断、心肺蘇生などの基本的な知識・技術の習得を図る。
15	シミュレーションⅡ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅡでは、救急救命士が行う包括的除細動処置、異物除去、搬送中の心肺蘇生および市民等に対するBLS指導技能の向上を図る。
16	シミュレーションⅢ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅢでは、救急救命士に必要な観察、判断に基づく創傷・固定処置、搬送中における継続観察要領について習得を図る。

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

救急救命学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
17	シミュレーションⅣ	3	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅣでは、器具による気道確保、薬剤投与に関する基本的技能を学ぶとともに隊の連携要領について学ぶ。また、市民等に対して実際にBLS指導を行い技能の向上を図る。
18	シミュレーションⅤ	3	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅤでは、重症傷病者に対する観察・重症度・緊急度判断、心肺停止前の傷病者に対する輸液および血糖測定、産科救急処置などの処置理論と技能の習得を図る。
19	シミュレーションⅥ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅥでは、シミュレーションⅠからⅤで習得した技能に基づき、一連の救急活動について総合訓練を行い、応用活動要領の習得を図る。
20	シミュレーションⅦ	2	千田 晋治	東京消防庁の救急隊員として杏林大学救命救急センターに委託研修生として出向し、救急救命士の国家資格を取得した。その経歴から消防学校の教官として、また総務省消防庁消防大学校で幹部養成の教官として派遣されたことで、様々な救急救命士教育に携わった経験を有する。	救急救命士を養成した経験を基にシミュレーションⅦでは、シミュレーションⅠからⅥで習得した技能に基づき、一連の救急活動について総合訓練を行い、応用的活動要領の習得を図る。
21	臨床実習	6	山田 賢治	高度救命救急センター、急性期総合病院等において、医師として入院・外来診療実務経験を有する。また、医学部学生、初期・後期臨床研修医の実地教育指導経験を有する。	高度救命救急センターでの実地指導経験を基に、現場の指導者と協力して救急医療に関する知識の応用と、救急救命処置に係わる技能の習得を目指す。また医療現場の見学と医行為の介助等を通して診療の補助に対する理解を深められるよう指導する。
22	特別講義Ⅰ	2	堀淵 志穂里	高度救命救急センターおよび循環器急性期病院において医師として勤務経験を有する。また、内科医として、内科系疾患を中心とした外来経験を有する。	内科系疾患に対する診断・治療等の経験を基に、病院前救護の中で重要な内科系疾患について、重点的に疾患の病因、病態生理、検査方法、治療の概要と病院前救護における観察・判断と処置、搬送方法の要点を教授する。
23	特別講義Ⅳ	2	官方 基行	高度救命救急センター、基幹病院の救命救急センターにおいて、医師として入院・外来診療実務経験を有する。また、医学部学生・初期臨床研修医の教育指導経験を有する。	救命救急センターでの種々の実務経験を基に、時事問題を中心とした救急、防災、災害などに関する事象に関し、学生同士のディスカッションを促し、自己の意見をまとめ論文の形にすることを指導する。

合計単位数 52

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

理学療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	リハビリテーション解剖学実習	1	藤澤 祐基	回復期リハビリテーション病院、大学病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等において理学療法士としての実務経験を有する。	理学療法士経験をもとに、解剖学の専門科目を勉強していく上で、主要な筋と関節についての基礎知識や理学療法に関わる筋学・運動学の概要について実習を行う。
2	リハビリテーション概論	1	橋立 博幸	一般病院（入院、外来）、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設、での臨床業務計19年を有する。	理学療法士としての幅広い職種での臨床業務経験に基づいて、リハビリテーションの理念、障害の概念、障害者の心理特性、関連職種の役割とチームアプローチ、リハビリテーションに関わる社会保障制度を講義する。
3	医療安全論	1	一場 友実	大学附属病院に2年間、国立病院（（現）独立行政法人 国立病院機構）に6年間、計8年急性期リハビリテーションに関わる。また老人保健施設に7年間、訪問リハビリテーションも6年間務めた経験を持つ。	急性期から回復期、在宅維持期までのリハビリテーションの各期の職務経験を持ち、各期におけるRisk管理や安全面への配慮など具体的な内容も含めた講義を展開する。
4	理学療法用語論	1	木村 雅彦	大学病院および急性期病院における臨床診療および診療指導経験17年以上を有する。 地域患者会顧問および保健所事業等の講師経験を有する。	理学療法の臨床診療においては、対象者ならびに多職種との良好なコミュニケーションを成立させることが必須であり、医学的専門知識を適切な用語で理解することや、さらにその上で専門用語の意味を平易な言葉で対象者やその家族に伝えることも必要である。本科目においては専門用語の意味と用法が適切に説明できるように、また、論文における理解が実践できるように、教員が臨時的なコミュニケーション能力を教育する。
5	運動学	1	一場 友実	大学附属病院に2年間、国立病院（（現）独立行政法人 国立病院機構）に6年間、計8年急性期リハビリテーションに関わる。また老人保健施設に7年間、訪問リハビリテーションも6年間務めた経験を持つ。	急性期から回復期、在宅維持期までのリハビリテーションの各期の職務経験を持ち、各期の特徴など具体的な内容も含めた講義を展開する。
6	運動学実習	1	一場 友実	大学附属病院に2年間、国立病院（（現）独立行政法人 国立病院機構）に6年間、計8年急性期リハビリテーションに関わる。また老人保健施設に7年間、訪問リハビリテーションも6年間務めた経験を持つ。	急性期から回復期、在宅維持期までのリハビリテーションの各期の職務経験を持ち、その実践から得られた技術なども実習に取り入れ講義を展開する。
7	病態運動学	1	倉林 準	理学療法士として病院にて整形外科領域での理学療法業務に携わる。	本授業は、解剖学として静止した状態での知識から、解剖学を動的かつ力学的な知識に展開することで、関節や筋の動的な評価、治療に結びつける講義を行っている。
8	運動解剖学	1	松村 将司	理学療法士として整形外科クリニックや大学病院に勤務した経験を有する。	理学療法士として、日々の臨床業務で触診は必須となる。対象者の何を触っているのか、どこを触っているのか、どこを触っているのか、これらを理解して触診できることは非常に重要である。理学療法士としての業務で培った経験、運動器徒手理学療法認定士としての経験を基に、筋や神経を正確に触り分けられることを目標に授業を実施する。
9	理学療法評価学概論	1	八並 光信	大学病院・呼吸器専門病院・一般病院で、理学療法士としての実務経験を有する。具体的な経験内容は、CP・CVDなどの中枢神経系障害、COPD・AMIなどの呼吸循環器系障害、整形外科疾患に代表される運動器系障害、DM・がんなどの内部障害系障害リハビリテーションである。また、臨床データを基にしたデータ解析・学会発表・論文作成も行っている。	理学療法評価の重要性について、事例なども提示しながら評価の根幹となる理学療法の検査測定について教授する。徒手筋力テストや関節可動域テストは、安静度によって変法を使用せざるを得ない場面があり、実務経験に照らして対処方法を教授する。リスク管理としては、血圧測定・心電図モニター・パルスオキシメーターなどの使用方法・読み取り・緊急時の臨床症状と対応を学習する。
10	理学療法評価学Ⅰ	1	橋立 博幸	一般病院（入院、外来）、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設、での臨床業務計19年を有する。	理学療法士としての幅広い職種での臨床業務経験に基づいて、様々な病態を有する患者や障害者の理学療法評価のうち、基本的な理学療法評価過程、必要な態度、各検査・測定の方法と実施方法について講義する。
11	理学療法評価学Ⅱ	2	倉林 準	理学療法士として病院にて理学療法業務全般に携わる。	本授業は、理学療法実務全般について、疾病分野別評価の特徴について。各専門の最先端で実務を担ってきた教員による授業を展開していきます。

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

理学療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
12	理学療法評価学実習	1	橋立 博幸	一般病院（入院、外来）、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設、での臨床業務計19年を有する。	理学療法士としての幅広い職域での臨床業務経験に基づいて、様々な病態を有する患者や障害者の理学療法評価のうち、主要な検査・測定の方法と実施方法について、実践的に実習する。
13	動作分析学	1	藤澤 祐基	回復期リハビリテーション病院、大学病院、介護老人保健施設、通所リハビリテーション等において理学療法士としての実務経験を有する。	理学療法士経験をもとに、動作分析学の専門科目を勉強していく上で、基本動作についての基礎知識や異常動作のメカニズム、各疾患の動作の解釈方法についての講義を行う。
14	運動療法学	2	村松 憲	大学卒業後5年間、医療施設、福祉施設などで身体に障害を持つ患者に対して運動療法を実施した。また、その後10年間は非常勤理学療法士として同様の業務に従事した。	運動療法の実践は教科書的な知識だけでは難しく、患者の疾患特性、障害特性に合わせた工夫であったり、複数の合併症を有する患者には様々な配慮などが必要である。本授業は科目担当者の実務経験からそれらの工夫、配慮についても解説する。
15	運動療法学実習	1	木村 雅彦	大学病院および急性期病院における臨床診療および診療指導経験17年以上を有する。 地域患者会顧問および保健所事業等の講師経験を有する。	理学療法の中心的な治療手段である運動療法においては、論理的な評価に基づいて、適切な手技を、対象者の状態に即して適切に実施する必要がある。本科目においては各分野のエキスパートである教員が、統合的な解釈を踏まえて治療の目的ならびに適応と禁忌や効果判定指標を明確にした上で、さらに安全や患者負担に配慮した評価治療が実践できるように、臨床的な能力を教育する。
16	物理療法学	2	村松 憲	大学卒業後5年間、医療施設、福祉施設などで身体に障害を持つ患者に対して物理療法を実施した。また、その後10年間は非常勤理学療法士として同様の業務に従事した。	物理療法の実践は教科書的な知識だけでは難しく、患者の疾患特性、障害特性に合わせた工夫であったり、複数の合併症を有する患者には様々な配慮などが必要である。本授業は科目担当者の実務経験からそれらの工夫、配慮についても解説する。
17	物理療法学実習	1	村松 憲	大学卒業後5年間、医療施設、福祉施設などで身体に障害を持つ患者に対して物理療法を実施した。また、その後10年間は非常勤理学療法士として同様の業務に従事した経験を有する。	物理療法の実践は教科書的な知識だけでは難しく、患者の疾患特性、障害特性に合わせた工夫であったり、複数の合併症を有する患者には様々な配慮などが必要である。本授業は科目担当者の実務経験からそれらの工夫、配慮についても解説する。
18	義肢学	1	石井 博之	1990～1993年：神奈川県リハビリテーション病院 1996～1999年：千葉県千葉リハビリテーションセンター 2002～2013年：国際医療福祉リハビリテーションセンター 上記施設において理学療法士として神経障害治療に対する実務を経験	これらの経験を活かし、切断患者におけるチームアプローチや切断術などの基礎知識を解説。 加えて義肢の各部位別の部品別特徴とその選択に必要な知識、臨床に必要な調整や適応技術の理解を促している。
19	装具学	1	石井 博之	1990～1993年：神奈川県リハビリテーション病院 1996～1999年：千葉県千葉リハビリテーションセンター 2002～2014年：国際医療福祉リハビリテーションセンター 上記施設において理学療法士として神経障害治療に対する実務を経験	これらの経験を活かし、装具の役割、分類、構造、構成要素などについての基礎知識を解説。 加えて装具の種類と構造、その疾患別適応と調整についての理解を促している。
20	義肢装具学実習	1	石井 博之	1990～1993年：神奈川県リハビリテーション病院 1996～1999年：千葉県千葉リハビリテーションセンター 2002～2015年：国際医療福祉リハビリテーションセンター 上記施設において理学療法士として神経障害治療に対する実務を経験	これらの経験を活かし、義肢装具を適応するために必要な歩行分析などの基礎知識を解説。 加えて装具の採型や採寸、調整や適応について、また義肢の調整や適応、アライメント調整について、実習を通じてその技術の習得を促している。
21	日常生活技術学	1	榎本 雪絵	大学病院等での理学療法士としての実務経験に加え、老人福祉施設での実務も継続している。	実際の患者を想定した疾患別の生活指導や留意点を含め説明を行っている。
22	日常生活技術学実習	1	榎本 雪絵	大学病院等での理学療法士としての実務経験に加え、老人福祉施設での実務も継続している。	実際の患者を想定した疾患別の生活指導の実践方法について、小グループで実習を行っている。患者役とセラピスト役の二人一組とし、対象の疾患や体型などに応じた誘導・介助方法等、詳細指導している。



2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

理学療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
23	運動器障害系理学療法学	2	跡見 友章	理学療法士として病院にて整形外科における外傷および変性疾患に対する保存的・手術的治療後の理学療法の実践に携わる。	整形外科領域における各種の外傷および変性疾患に対しては、保存的治療および手術的治療の特性を十分に理解した上で理学療法プログラムを立案する必要がある。本講義では、整形外科領域の疾患を背景とする運動器障害に対して、各関節における機能解剖と疾患の関係や、姿勢と動作が関節に与える力学的ストレス、周術期において理学療法を実施する上での留意事項など、実践的な知識と技術について講義する。
24	神経障害系理学療法学	2	石井 博之	1990～1993年：神奈川県リハビリテーション病院 1996～1999年：千葉県千葉リハビリテーションセンター 2002～2012年：国際医療福祉リハビリテーションセンター 上記施設において理学療法士として神経障害治療に対する実務を経験	これらの経験を活かし、神経障害の病態とその回復、リハビリテーションの流れなど基礎知識を解説。 加えて理学療法での評価と治療介入の実際について知識・技術の理解を促している。
25	内部障害系理学療法学	2	八並 光信	大学病院・呼吸器専門病院・一般病院で、理学療法士としての実務経験を有する。具体的な経験内容は、CP・CVDなどの中枢神経系障害、COPD・AMIなどの呼吸循環器系障害、整形外科疾患に代表される運動器系障害、DM・がんなどの内部障害系障害リハビリテーションである。また、臨床データを基にしたデータ解析・学会発表・論文作成も行っている。	COPD・MI・CKD・がんなどの疾患特性と障害に関して、多岐にわたる臨床所見をスライド等の視覚的素材を通して、学習する。また、進行性病変であるため、臨床場面を想定し、病期による理学療法を教授する。また、臨床におけるプログラム策定において、定期的に障害程度に応じた検査測定を行いモニタリングするというPDCAサイクル意識した授業を行う。
26	小児理学療法学	2	中野 尚子	小児専門の理学療法士として、大学病院や小児リハビリテーション病院、子ども発達センター等において、30年以上の臨床経験を有する。 また、小児理学療法の代表疾患である脳性麻痺児に対する神経発達学的治療アプローチのインストラクターとして、現役理学療法士への指導も行っている。	授業においては、2年次に履修した人間発達学の知識の復習も取り入れながら、学生が小児疾患の臨床像を想起しやすいように視覚教材を用いたり、教員自身が実際に臨床像を模倣したりしている。また学生自身が児の問題点を考慮して理学療法プログラムを作成することができるよう、一人一人異なる小児の臨床例についても、教員の経験を伝えている。
27	高次脳機能障害学	1	跡見 友章	理学療法士として病院にて脳神経外科および神経内科における各種高次脳機能障害に対する理学療法の実践に携わる。	理学療法の適応となる脳神経外科領域における疾患について、認知機能を含めた高次脳機能の障害を有する対象者は多い。これに対して適切に理学療法的介入を実施するためには、高次脳機能に関する専門的知識に加え、臨床場面における様々な実践的取り組みについて理解を深める必要がある。本講義では、実際の臨床場面における高次脳機能障害の理学療法の取り組みの紹介を含めて講義を行う。
28	高齢者理学療法学	1	橋立 博幸	一般病院（入院、外来）、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設、での臨床業務計19年を有する。	幅広い職種での臨床業務をとおして携わった高齢の患者や障害者の理学療法の経験に基づいて、高齢者の心身機能における加齢変化、特徴的な症候、代表的な生活機能評価、主な理学療法介入について講義する。
29	急性期理学療法学	1	木村 雅彦	大学病院および急性期病院における臨床診療および診療指導経験17年以上を有する。 地域患者会顧問および保健所事業等の講師経験を有する。	今日の高度先進医療における理学療法の臨床診療においては、侵襲下にある対象者に対してまず論理的な評価治療計画を立案し、状態に即して適切な反応が得られているか否かを確認しながら進行する必要がある。本科目においては統合的な解釈を踏まえて、介入の目的ならびに適応と禁忌を明確にした上で、さらに安全や患者負担に配慮した評価治療が実践できるように、教員の思考過程および臨床能力を伝達し教育する。
30	スポーツ障害理学療法学	1	倉林 準	平成11年～平成17年：日本バドミントン協会 日本代表トレーナー 平成13年度～16年度：日本オリンピック委員会 強化スタッフ（バドミントン）などに従事した経験を有する。	実際に起こりうるスポーツ外傷の病態、評価、治療などについて実技を含めて講義を進めていく。また授業を通して、外傷後・術後のメディカルリハビリテーション、スポーツ現場でのアスレティックリハビリテーションに分類しながら授業を展開していきます。
31	マニュアルセラピー	1	松村 将司	理学療法士として整形外科クリニックや大学病院に勤務した経験を有する。	理学療法士として、特に運動器疾患を担当するためにはマニュアルセラピーに関する知識・技術が重要となる。国際資格である運動器徒手理学療法認定士（世界理学療法連盟の正式な下部組織である国際徒手理学療法士連盟の基準に基づいた教育プログラムで実施されている日本運動器徒手理学療法学会主催のコースにて取得）としてマニュアルセラピーの基礎的な部分を実施する。同時に整形外科クリニックなどでの経験を基に、実際の患者における注意点も含め授業を実施する。
32	プロフェッショナルスキル	2	木村 雅彦	大学病院および急性期病院における臨床診療および診療指導経験17年以上を有する。 地域患者会顧問および保健所事業等の講師経験を有する。	理学療法の臨床診療においては、まず論理的な評価治療計画を立案することが必要であり、その上で、適切な手技を、状態に即してかつ礼節を保った適切な態度で実施する必要がある。本科目においては統合的な解釈を踏まえて、目的ならびに適応と禁忌を明確にした上で、さらに安全や患者負担に配慮した評価治療が実践できるように、教員が模擬患者を務める実技試験等を実施し、臨床的な能力を教育する。
33	クリニカルリーズニング	1	跡見 友章	理学療法士として病院にて整形外科および脳神経外科を中心とした疾患を有する対象者に対して、理学療法プログラムの立案と実施に携わる。	理学療法の適応となる対象者に対して適切な理学療法プログラムを立案するためには、理学療法評価において実施した各種検査の結果を統合した上で、論理的整合性が担保された解釈を行う必要がある。本講座では、理学療法プログラムを立案するにあたって必要となる論理的思考のプロセスについて講義する。その上で、さらに理解を深めるために実際の症例を用いて演習形式の授業を実施する。

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

理学療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
34	地域理学療法	2	榎本 雪絵	大学病院等での理学療法士としての実務経験に加え、介護支援専門員資格も取得している。老人福祉施設での実務も継続しており、また、デイサービスセンターなどの開設・運営などにも携わってきた。加えて、地域活動として三鷹市住民への健康事業も実践している。	ケーススタディを含め、実際の患者・利用者・地域住民を想定しての地域理学療法の実践を提示している。急性期・回復期病院にて求められる理学療法、施設など生活期にて求められる理学療法、さらに地域住民の健康増進のための理学療法など具体的に説明している。
35	理学療法国際事情	1	一場 友実	大学附属病院に2年間、国立病院（現）独立行政法人 国立病院機構）に6年間、計8年急性期リハビリテーションに関わる。また老人保健施設に7年間、訪問リハビリテーションも6年間務めた経験を持つ。途上国のリハビリテーション施設へも来邦経験があり、さらにグローバル人材育成推進事業の一環としてオーストラリアのクイーンズランド大学でCLIL (Content and Language Integrated Learning) も受講済である。	途上国のリハビリテーション施設の訪問から学んだ実情や問題点、各国での医療制度の相違などについて実際の経験から得られた内容も含め講義を展開する。またCLILで学んだ教授法の実践も行っていく。
36	評価実習 I	2	跡見 友章	病院において、理学療法士および臨床実習指導者として学生教育に携わる。	理学療法における専門的理解を深めるためには、学内に習得した知識や技術を基盤として、臨床場面における理学療法の実践を経験する必要がある。また、実際に理学療法の対象者に対して検査・測定を実施するためには、適切にコミュニケーションをとる能力が必要である。評価実習 I では、理学療法を対象者に実施する上で必要なコミュニケーション、各種検査・測定手法について、担当教員がモデルケースとなった上で実習を行う。
37	理学療法特論	2	八並 光信	大学病院・呼吸器専門病院・一般病院で、理学療法士としての実務経験を有する。具体的な経験内容は、CP・CVDなどの中枢神経系障害、COPD・AMIなどの呼吸循環器系障害、整形外科疾患に代表される運動器系障害、DM・がんなどの内部障害系障害リハビリテーションである。また、臨床データを基にしたデータ解析・学会発表・論文作成も行っている。	理学療法における臨床効果は、各病院・医院に来院する患者のバイアス（選択バイアス）を考慮して判定を行う必要がある。また、介入効果も適切な実験計画法を適応していく必要がある。そのため実務経験に基づいたバイアスを紹介しながら、主には、データ後の統計的手法と結果の解釈に関して教授する。臨床的疑問（クリニカルクエスト）が非常に重要であることを教授する。実務レベルで収集するであろう各種の測定レベル（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）に応じた統計解析方法を、仮定の臨床データを用いて、適切な手法の選択と実務レベルに即した解釈方法について学習する。
38	理学療法研究法	1	八並 光信	大学病院・呼吸器専門病院・一般病院で、理学療法士としての実務経験を有する。具体的な経験内容は、CP・CVDなどの中枢神経系障害、COPD・AMIなどの呼吸循環器系障害、整形外科疾患に代表される運動器系障害、DM・がんなどの内部障害系障害リハビリテーションである。また、臨床データを基にしたデータ解析・学会発表・論文作成も行っている。	理学療法における臨床研究は、実務経験に基づいた臨床的疑問（クリニカルクエスト）が非常に重要であることを教授する。病態・評価・治療・リスク・予防に関して、EBMの実践に不可欠な臨床研究における最初のステップであるクリニカルクエストを「①どのような患者に (Patient) ②どのような評価・治療をしたか (Intervention) ③何と比較して (Comparison) ④どのような結果になるか (Outcome)？」という4つの要素から吟味する。実務経験で得られたクリニカルクエストを紹介しながら、バイアスを考慮したデータ収集方法や解析方法を学習する。
39	基礎ゼミ	2	八並 光信	大学病院・呼吸器専門病院・一般病院で、理学療法士としての実務経験を有する。具体的な経験内容は、CP・CVDなどの中枢神経系障害、COPD・AMIなどの呼吸循環器系障害、整形外科疾患に代表される運動器系障害、DM・がんなどの内部障害系障害リハビリテーションである。また、臨床データを基にしたデータ解析・学会発表・論文作成も行っている。	基礎ゼミは、ゼミナール形式の授業であり、各教員の理学療法士としての実務経験を参照しながら、生理学・解剖学・運動学・一般医学（内科学・整形外科学・外科学・神経学・精神医学）などの基礎医学を、臨床像から理解を深めるという授業を行う。すなわち、障害に応じた理学療法を行うためには、特に運動生理学的知見が重要であり、リスク管理は病態の理解が重要であるということを、学生へ再認識させ、不十分であれば自己学習する習慣を身につけるようにする。
40	理学療法治療学総論	1	門馬 博	大学病院、クリニックでの臨床経験を有する。	理学療法に関する各種治療法について、学術的背景、科学的知見、および科目担当者の経験に基づきながら総論的に教授する。
41	地域と大学	1	門馬 博	大学病院、クリニックでの臨床経験を有する。 三鷹市・羽村市での介護予防事業、高齢者の健康寿命延伸に関する講演・啓発活動を行っている。	グループワークを通じ、各自自治体における課題と解決について考察する。

合計単位数 53

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

作業療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	医療安全論	1	早坂 友成	精神科病院、メンタルクリニック、大学病院における精神科作業療法の実務経験年数が約20年ある。	教員が実務上経験した転倒転落や感染症などの事例を示し、その対策をグループ演習によって検討する。医療が安全に展開できる方法を国内外の基準をもとに学び、リスク管理を十分に行える能力を養う。
2	基礎作業学実習Ⅱ (作業活動の応用)	1	早坂 友成	精神科病院、メンタルクリニック、大学病院における精神科作業療法の実務経験年数が約20年ある。	作業が療法になる仕組みを学び、臨床において活用されやすい作業を実技をもとに習得する。学ぶ内容は教員の実務経験に基づき、使用頻度の高い作業を選定し、その構造を理解することが主である。作品の完成などとおして、人にとっての作業の構造を理解する。
3	作業療法評価学実習Ⅰ (中枢神経障害)	1	丹羽 正利	東海大学医学部付属病院のリハビリテーション部門で作業療法士として勤務してきた。主に、脳血管障害や頭部外傷、脊髄損傷などの中枢神経疾患の患者を受け持った経験を有する。	臨床場面で用いる身体的機能評価の基本的な手技を実技を通して学習する。解剖学、生理学、運動学等の基礎知識を踏まえ、関節可動域検査、徒手筋力検査、反射検査、脳神経検査、小脳機能検査、上肢機能検査など臨床で幅広く用いる検査手技を、臨床場面に即して、学生同士による実習を通して実際の技術を学ぶ。
4	作業療法評価学実習Ⅱ (発達、精神障害)	1	早坂 友成	精神科病院、メンタルクリニック、大学病院における精神科作業療法の実務経験年数が約20年ある。	作業療法の評価に必要な面接法、観察法、検査法、測定法、試験法を学生間の実技によって習得する。学生には教員が実務上経験した精神障害や精神疾患の典型事例を示し、模擬患者を演じさせ、技術の習得を行う。
5	身体障害作業療法学Ⅲ (中枢神経系疾患：脳血管)	1	鈴木 優喜子	作業療法士として病院（回復期病院、大学病院）に14年間勤め、主に急性期の脳卒中事例を多く担当し、臨床経験を積んだ経験を有する。	脳卒中事例に対する評価、問題点・利点の抽出、作業療法計画立案および基本動作と介入方法について具体例を挙げて教授する。
6	身体障害作業療法学Ⅳ (中枢神経系疾患：進行性)	1	原田 祐輔	中枢神経系の進行性疾患・障害に対する、急性期、回復期、生活期（在宅）での作業療法実務経験を有する。	急性期から生活期の作業療法臨床実践において“経験上、関わる頻度が高い”と考えられる進行性疾患に着目し、臨床実践に必要な障害像の把握や評価における知識・技術を教示する。また、実践を想定した演習によって理解を深めるよう促す。
7	身体障害作業療法学演習	1	原田 祐輔	身体障害領域の作業療法実務を13年経験している。急性期・回復期・生活期（在宅）での作業療法実務経験を有する。	臨床実践において経験した事例を呈示し、身体障害領域における作業療法過程を概観する。また、疾患や病期による差異について、臨床実践に基づいた具体的な内容を教示する。さらに、実践を想定した演習によって理解を深めるよう促す。
8	精神障害作業療法学演習	1	早坂 友成	精神科病院、メンタルクリニック、大学病院における精神科作業療法の実務経験年数が約20年ある。	精神障害者および精神疾患の患者に対する作業療法の評価および治療計画の立案方法を教員の実務経験上の事例に基づいて学習する。特に、統合失調症、うつ病、双極性障害、神経症の患者を中心に事例検討を行う。
9	発達障害作業療法学Ⅱ（疾患別）	1	鈴木 健太郎	臨床経験（発達障害領域作業療法）を有する。	通園施設や発達相談他での実務・臨床経験等を通し、発達障がい児他の作業療法やシーティング、多職種連携他の話題等で、授業内容を広げ理解を深めていく。
10	老年期障害作業療法学	1	望月 秀樹	日本医科大学第2病院リハビリテーション科および高齢者リハビリテーション研究所での勤務経験を有する。	大学病院では、様々な疾患や珍しい症例を多数担当した。その経験に基づき急性期医療における作業療法の実施方法を授業内容に反映させている。また高齢者リハビリテーション研究所では、介護予防を目的とした老化に対するリハビリテーションに関して研究開発し、多くの高齢者施設で実践した。その実践経験を授業内容に反映させている。
11	認知障害作業療法学	1	齋藤 利恵	病院勤務時代、様々な認知症の方々への作業療法を展開してきた経験を有する。	本授業では、認知症のタイプ別に評価、治療実践方法などを教授する。また、認知症の方との円滑なコミュニケーション方法などについても合わせて教授する。認知症への理解を促し、臨床実践への土台を整える。
12	義肢装具学実習	1	前田 直	杏林大学医学部付属病院にて作業療法士としての勤務経験を有する。	労働災害や交通事故、転倒による外傷や、疾病、先天奇形などにより上肢機能に障害を負った対象者には、義肢や装具を用いた訓練が実施される。杏林大学医学部付属病院は特定機能病院に指定されており、上肢機能についても高度な医療の提供が必要な対象者が多く訪れる。作業療法ではリハビリテーション専門医や義肢装具士らと連携し、義肢や装具を活用した訓練を展開している。授業ではこうした実践場面を紹介する。

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

作業療法学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
13	日常生活活動学Ⅰ（総論）	1	原田 祐輔	急性期・回復期・生活期（在宅）において、脳卒中、脊髄損傷、日常生活活動に対する作業療法実践経験を有している。	臨床実践に必要な基礎的な知識に加え、疾患・環境によるアプローチの差異について教示する。また、実際の臨床場面において実施した“環境調整方法”を具体的に示すについて教示する。さらに、実践を想定した演習によって理解を深めるよう促す。
14	日常生活活動学Ⅱ（疾患別）	1	鈴木 優喜子	作業療法士として病院（回復期病院、大学病院）に14年間勤め、主に急性期にある様々な疾患患者において臨床経験を積んだ経験を有する。	臨床で経験・修得した知識・技術を踏まえ、本講義で疾患別にみた日常生活活動の指導・援助法について教授する。
15	クリニカルリーズニング	1	早坂 友成	精神科病院、メンタルクリニック、大学病院における精神科作業療法の実務経験年数が約20年ある。	クリニカルリーズニングとは臨床的推論を意味し、評価技法によって収集した情報をもとに患者がどのような状態にあるのか、今後どのような経過を経るのかを予測できる能力を学ぶ。教員の実務経験において、典型事例を中心に論理的推論の能力を養う。
16	ハンドセラピー学	1	前田 直	杏林大学医学部付属病院にて作業療法士としての勤務経験を有する。	ハンドセラピーが対象としている手の外科疾患患者には、組織修復の治癒過程に応じた慎重な運動療法とADL・QOL向上へつなげていくセラピーの実施が必要である。杏林大学医学部付属病院では、リハビリテーション専門医や手の外科専門医らとともに受傷後あるいは手術後早期から作業療法が介入し、ハンドセラピーが実施されている。授業では杏林大学医学部付属病院における手の外科疾患に対するハンドセラピー実践を紹介する。
17	地域ケアシステム論	1	望月 秀樹	日本医科大学第2病院リハビリテーション科および高齢者リハビリテーション研究所での勤務経験を有する。	大学病院では、様々な疾患や珍しい症例を多数担当した。その経験に基づき急性期医療における作業療法の実施方法を授業内容に反映させている。また高齢者リハビリテーション研究所では、介護予防を目的とした老化に対するリハビリテーションに関して研究開発し、多くの高齢者施設で実践した。その実践経験を授業内容に反映させている。
18	住環境整備論	1	長島 泉	2級建築士として1級建築士事務所に勤務経験（7年）、福祉住環境コーディネーター2級を取得し、障害者施設設計のアドバイザー経験を有する。	本講義は、担当教員の建築士と作業療法士の経験に基づき、空間の持つ物理的・心理的側面について、建築の素養がない学生でも考察・検討できるよう、演習やレポート課題を繰り返し実施する。具体例として、既存空間の測り方を学び、それを図面化し、実際にそこで作業を行い、空間の大きさやかたちによって誘発される心理的反応について考察する。また、住宅改修を検討する際に最低限求められる家屋構造の知識について学ぶ。

合計単位数 18

# 2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

## 看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	形態・機能学	2	岩橋 桜子	杏林大学大学院社会医学系法医学専攻卒業。 病院内科外来・内科病棟に勤務経験を有する。	実務で得た知識をもとに正常な人体の構造や機能を基礎から学び知識の定着を図っていく。
2	病態治療論Ⅰ	2	岩橋 桜子	病院内科外来・内科病棟に勤務経験を有する。	実務で経験した疾患の具体的な症状などを提示して疾患の理解を理解を深め、実際の看護に生かせるようにしている。
3	病態治療論Ⅲ	2	岩橋 桜子	平成30年度日本オリンピック委員会強化スタッフ、日本体育協会公認スポーツドクターとしての経験を有する。	実務で経験した疾患の具体的な症状などを提示して疾患の理解を理解を深め、実際の看護に生かせるようにしている。
4	病態治療論Ⅳ	1	勝又 木綿子	杏林大学医学部付属病院の産婦人科に所属し、婦人科外来と婦人科病棟および不妊症外来と体外受精症での実務経験を有する。	女性生殖器疾患の診療に必要な診察の手順と注意点、検査項目の決定、薬物療法を行うときの要点、手術の適応について講義をする。不妊症の外来診療と生殖補助医療の実際について講義する。
5	病態治療論Ⅴ	1	岩橋 桜子	病院内科外来・内科病棟に勤務経験を有している。	実務で経験した疾患の具体的な症状などを提示して疾患の理解を理解を深め、実際の看護に生かせるようにしている。
6	保健福祉行政論Ⅱ	2	藤井 広美	保健師（在宅介護支援センター、市保健センター、労働衛生機関）、日本看護協会での勤務経験を有する。	行政の保健師としての経験をもとに、成人保健対策について、諸制度の仕組みだけではなく地域における健康課題の特徴や住民とともに取り組む生活習慣病予防活動等の取り組みについて具体例を講義している。また、事例による演習を取り入れ、制度と保健活動の実際がどのようにつながっていくのか体験的な学習方法を展開する。
7	産業保健学概論	1	藤井 広美	保健師（在宅介護支援センター、市保健センター、労働衛生機関）、日本看護協会での勤務経験を有する。	労働衛生機関で労働者の保健指導や健康管理に携わってきた経験をもとに、働く場における健康課題や健康支援の実際について講義している。また、働き盛り層の健康課題の特徴と支援について、健康教育案の作成を演習として取り入れ、体験的な学習方法を展開する。
8	看護学概論	2	天野 雅美	病棟看護師としての実務経験を有する。	看護の対象は様々な環境に囲まれて生活している人間であり、その人間の健康状態に合わせて看護を提供している。看護を学ぶにあたり、これらのキーワードを基本として学習する意義がある。看護の歴史の変遷や看護理論家の看護概念を学び、看護者としての基本的態度である倫理的側面を理解すると共に、看護への興味が増し、関心を深めることにより学習への動機づけを行う。
9	看護援助論	1	天野 雅美	病棟看護師としての実務経験を有する。	看護に対する援助技術の学習を始めるにあたり、基本的な知識や原則が求められる。人間のニーズと看護における健康問題・課題の捉え方を理解した上で、看護援助とは何かを明確にする必要がある。更に、看護援助の基盤となる看護過程、観察・記録・報告、看護過程、安全・安楽・自立、感染予防、コミュニケーションについて理解を図る。
10	生活行動援助技術Ⅰ	2	加治 美幸	看護師としての病棟・外来看護実務経験を有する。	生活行動援助技術における安全・安楽・自立の重要性について具体的なイメージができるように、実践における事例を紹介する。講義・演習の担当教員は看護師としての経験をもち、技術修得のための実践的なアドバイスを教授する。
11	生活行動援助技術Ⅱ	2	佐藤 智子	病棟看護師としての実務経験を有する。	取り扱う単元の「清潔の援助」および「排泄の援助」は感染予防や離床促進のため重要である一方、転倒転落や熱傷などのリスクが高く、羞恥心や抵抗感を与えやすいことを強調し、安全安楽な援助のための技術について知識と技術の学習を支援している。 患者の個性性を考慮した援助目的・方法の選択肢をもつ必要性を提示し、適切な判断ができるよう学生同士でのシミュレーション学習を設けている。
12	ヘルスアセスメント技術	1	佐藤 智子	病棟看護師としての実務経験を有する。	患者の状態観察で得られるバイタルサインなどの情報は看護師だけでなく医師やリハビリスタッフなどの医療チーム全体が必要とするものであり、正確な測定と適切な記録・報告が不可欠である。臨床看護では個別の状況に応じた観察技術が求められるからこそ、初学者には観察技術の原理原則の理解が重要と考え、少人数グループでの演習指導や技術チェックを行い、反復練習による技術の習熟を目指している。
13	看護過程	1	天野 雅美	病棟看護師としての実務経験を有する。	看護過程は、看護を系統的に実践するための思考過程でありツールである。その看護過程を効果的・効率的に展開するための5つのステップであるアセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価の概念について学習する。看護理論家の一人であるヴァージニア＝ヘンダーソンの考えに基づく看護過程の展開方法を具体的な紙上事例を通して展開する。
14	治療・処置の技術	2	金子 多喜子	臨床看護師経験（精神・神経科、手術室、混合外科）を有する。	診療の補助技術は身体侵襲を伴い医師の指示に基づく援助であり、医療事故事例を分析しながら安全管理の重要性について考える科目としている。教員は適宜、看護援助モデルを示すとともに、学生の演習体験の意味づけを支援するよう指導する。

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
15	基礎看護学実習 I	1	金子 多喜子	臨床看護師経験（精神・神経科、手術室、混合外科）を有する。	臨床における看護実践場面に同行し、療養環境や日常生活援助について既習の知識を統合しながら学ぶ。教員は適宜、看護援助モデルを示しするとともに、学生の実習体験における看護の意味づけを支援するよう指導する。
16	基礎看護学実習 II	2	天野 雅美	病棟看護師としての実務経験を有する。	患者を受け持ち、看護過程で学んだ5つのステップを実際に展開していく。各ステップを踏む中で、患者を全人的にとらえ、既習の知識・日常生活援助技術を統合しながら、患者に適した看護援助を実施する方法を学習する。患者・家族との関わりを通して、看護者としての態度を学ぶ。また、看護の役割・機能、他専門職者との協働について理解を深める。
17	成人看護学概論	2	加賀谷 聡子	大学病院のICUおよび内科・外科病棟に11年勤務した経験を有する。	成人期の特徴の理解を促す際に、学生が具体的にイメージできるように、実際に入院してくる成人の社会的背景がわかるような事例を提示したり、危機状況を理解しやすいように、実際に出会った症例などを享受する。
18	成人看護学 I	2	加賀谷 聡子	大学病院のICUおよび内科・外科病棟に11年勤務した経験を有する。	周術期の看護について授業するにあたり、学生が術前・術後の患者を具体的にイメージでき、興味が持てるように臨床で経験したせん妄などのエピソードや、合併症の実例などを交えながら講義を展開する。
19	成人看護学 II	2	中島 恵美子	臨床看護師として13年間病院での実務経験がある。主として救急看護、がん看護の分野で看護の実践経験を有する。	臨床実践におけるがん患者の集学的治療に伴う看護実践の経験を活かし、慢性期看護を展開する。特に慢性期にある患者の特徴やがん化学療法、放射線療法、ホルモン療法を受ける患者の看護とセルフケアについて学習する。
20	成人看護学演習	2	東 利江	大学病院混合外科および一般・消化器外科病棟勤務（看護師）	外科系混合病棟および一般・消化器外科病棟で看護師として勤務し、手術を受ける患者の看護を実践した。多岐にわたる疾患と、青年期から壮年期、老年期までさまざまな年齢の対象に対して看護過程を展開し、個性性を考慮した看護援助を実施したことを講義内容に活用している。
21	成人看護学実習 I	3	伊藤 有美	高度救命救急センター、集中治療室勤務経験18年（看護師）	高度救命救急センターおよび集中治療室での実務では、過大な生体侵襲を受けた重症患者家族に対する看護に従事した。これらの経験を活かし、手術侵襲や麻酔の影響を受けた患者の身体的変化や、心理・社会的な側面に及ぼす影響を的確に捉え、苦痛の緩和と回復への促進を中心とした看護実践を、個々の患者特性と科学的根拠および理論を統合して学べるよう、On-the-Job Trainingを用いた実習を展開する。
22	成人看護学実習 II	3	量 倫子	大学病院で急性期～終末期のがん患者を対象に看護の実践経験を有する。	慢性疾患が対象に及ぼす影響を全人的にとらえられるよう、臨床経験での患者との関わりを伝える。また苦痛の緩和や日常生活援助など、患者への直接的なケアを学生と共にを行い、ロールモデルとしての役割も果たす。
23	高齢者看護学概論	2	坂井 志麻	大学病院、脳卒中専門病院、療養型病院、企業の訪問保健師、東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員と病院・在宅における看護師・保健師の実務経験を有する。	看護師・保健師の実務経験を活かして高齢者の健康生活を支援する看護について、予防的視点やエンパワメントを促進する方策について考える授業を展開する。
24	高齢者看護学	2	坂井 志麻	大学病院、脳卒中専門病院、療養型病院、企業の訪問保健師、東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員と病院・在宅における看護師・保健師の実務経験を有する。	看護師・保健師の実務経験を活かして健康障害を抱える高齢者への看護について、高齢者に多くみられる症状別に系統立てて授業を展開する。
25	高齢者看護学演習	1	熊野 奈津美	都内大学病院にて看護師として5年間勤務、その後、訪問看護ステーションにて訪問看護師として実務経験を有する。	病棟および訪問看護師としての実務経験を活かし、実際に経験した事例を学生へ紹介したり、学生が学習しやすい教材としてアレンジして用いたりすることで、病院や在宅、施設等、多様な場で共通して活用できる視点を盛り込み、授業を展開している。
26	高齢者看護学実習 I	2	熊野 奈津美	都内大学病院にて看護師として5年間勤務、その後、訪問看護ステーションにて訪問看護師として実務経験を有する。	実務経験を活かし、ケア提供場面に立ち会い解説を行ったり、実際にケアを提供しモデルを示したりすることで、学生の学習促進支援を行う。
27	高齢者看護学実習 II	2	坂井 志麻	大学病院、脳卒中専門病院、療養型病院、企業の訪問保健師、東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員と病院・在宅における看護師・保健師の実務経験を有する。	看護師・保健師の実務経験を活かして、今後の生活を見据えた疾病マネジメントと生活支援の視点をもって、急性期病院に入院した高齢者に必要な看護実践ができるよう学習支援を行う。

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
28	小児看護学概論	2	吉野 純	小児病棟(3.5年)、NICU/GCU(1.5年)、小児外来(2年)において看護師として、病気の子ども治療、日常生活援助、子どもと家族の精神面のサポートに携わる。地域のNPOの活動として、育児相談、発達相談を行っている。	学生の技術演習(更衣、抱っこ、おむつ交換)として、子どもの日常生活援助の実際についてモデル人形を使いながら、実際の子ども様子や反応、留意点を伝え、リアリティをもたせた指導を行っている。子どもの発達状況や各期における特徴など、実際に地域で見ている子どもの様子などを交えて学生に伝えている。今の家族が抱える問題や子育ての悩み等についても実際の様子をふまえて内容を展開する。
29	小児看護学	2	吉野 純	小児病棟(3.5年)、NICU/GCU(1.5年)、小児外来(2年)において看護師として、病気の子ども治療、日常生活援助、子どもと家族の精神面のサポートに携わる。地域のNPOの活動として、育児相談、発達相談を行っている。	病気の子ども状況、支援の実際について、講義内容に盛り込み、学生が病気の子どもおよびその看護に対してイメージが持てるようにしている。事例を多く取り入れ、教科書には載っていない個別性への配慮やあらゆる病棟環境への対応等について教授する。
30	小児看護学演習	1	岩田 洋子	看護師として小児病棟勤務経験を有する。	小児病棟に入院する子どもの特徴や反応、看護師の対応を実例を用いて紹介し、実際の小児医療現場に近い環境下で小児看護技術を習得できるよう展開する。
31	小児看護学実習	2	岩田 洋子	看護師として小児病棟勤務経験を有する。	小児病棟に入院する子どもや家族とのコミュニケーションのとり方、患児の状況把握、小児看護技術の提供において、臨床経験を学生への指導に活用している。さらに、実習指導者との連携が円滑に進むように調整役割をとっている。
32	母性看護学概論	2	松岡 恵	産科病棟・外来における助産師及び、幼稚園・小学校における養護教諭の実務経験を有する。	母性看護学領域における看護の対象を理解する上で、実際に看護を展開する多様な場面を想定した授業構成を取り入れている。
33	母性看護学	2	松岡 恵	産科病棟・外来における助産師及び、幼稚園・小学校における養護教諭の実務経験を有する。	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の各期の看護実践に必要なケアの科学的根拠を実際に展開するための思考過程を、実際の看護場面、状況を想定した授業構成を行っている。
34	母性看護学演習	1	絹川 朋美	総合周産期センター、地域周産母子センター、市民病院や助産院で助産師業務における実務経験を有する。	経験に基づき、基本的知識を臨床の看護に活かせるような褥婦とその新生児に対する看護過程の展開を行う。さらに、妊産褥婦および新生児への看護技術の基本を学び、臨地実習で実践できるよう指導する。
35	母性看護学実習	2	松岡 恵	産科病棟・外来における助産師及び、幼稚園・小学校における養護教諭の実務経験を有する。	実習場面では、学生が実際の妊産褥婦、新生児を受け持ち、看護を展開するが、その際、助産師経験をもとに、実習指導者と協働で学生とともに対象者へのケア提供を行いながら指導をしている。
36	精神看護学概論	2	浅沼 奈美	大学病院(看護師)、保健所、本庁、精神保健福祉センター(保健師)での勤務経験を有する。	保健・医療・福祉の立場から臨床及び地域での包括的な精神保健看護について各分野の学びを深める。
37	精神看護学	2	佐藤 美保	主に大学病院(精神科病棟)の看護師としての経験を有する。	精神の危機状況と回復過程への看護、精神科患者の看護過程の基礎知識の修得とともに、様々な自己理解の技術を学び、実際の技法の活用方法を修得するため、事例を通して学習できるように展開する。
38	精神看護学演習	1	佐藤 美保	主に大学病院(精神科病棟)の看護師としての勤務経験を有する。	精神科患者の看護過程を事例を用いて演習し看護計画立案方法を修得する。そのため、複数の看護場面をもとに、グループワーク(ペーパーペーシエント、ロールプレイ、プロセスレコードによる振り返り)などを取り入れる。
39	精神看護学実習	2	佐藤 美保	主に大学病院(精神科病棟)の看護師としての勤務経験を有する。	精神科病院および大学病院精神科、作業所における実習を行い各施設の機能の違いを理解し、精神看護の知識と技術を実習を通し修得する。患者との関わりの過程での患者の様々な反応を予測しながら効果的な学習になるよう指導する。
40	在宅看護学	2	柴崎 美紀	看護師として約10年の病院勤務経験と、看護師・保健師として約4年間の在宅医療関連施設(在宅療養支援診療所、国保連合会、地域密着型サービス)での勤務経験を有する。	在宅看護の基本となる理論、関係法規、社会資源については、最新の知見と現場での実際を並行的に関連付けながら教授している。専門性の高い小児科、精神科領域の講義については、地域のネットワークを活用して専門家の講義をコーディネートしている。授業の復習用ノートを作成し添削を重ねており、実習で再活用できるように展開する。

## 2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

### 看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
41	在宅看護学演習	2	柴崎 美紀	看護師として約10年の病院勤務経験と、看護師・保健師として約4年間の在宅医療関連施設（在宅療養支援診療所、国保連合会、地域密着型サービス）での勤務経験を有する	学生にリアリティのある事例を提供し、在宅看護過程の展開を実施できるように工夫している。事例は毎年変更し、これまでに「在宅ターミナル」「認知症」「独居高齢者」「回復期リハビリ」「初回訪問看護」などの設定を行った。学生はグループワークで検討をすることにより、集中力と団結力が養われている。最終的にはロールプレイへ発展させて実演を行う。学生は独自の発想で、ケア方法を開発し、市場の物品をリサーチしながら在宅独自の看護介入を考察している。
42	在宅看護学実習	2	柴崎 美紀	看護師として約10年の病院勤務経験と、看護師・保健師として約4年間の在宅医療関連施設（在宅療養支援診療所、国保連合会、地域密着型サービス）での勤務経験を有する。	実習記録の考察が感想にとどまりがちな学生に、生活背景、家族環境等を含めたを観察する在宅看護の視点を指導している。実習施設に対しては、学生の状況や大学での講義内容のフィードバックを行い、質の高い学習環境が得られるように緊密に連携を取り展開している。
43	公衆衛生看護学概論	2	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障害児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署（都庁）にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	健康の社会的規定要因について、また家族支援、生活支援について、現場で経験した事例を加工した教材をもちいて具体的に域での看護活動がイメージできるよう教授している。
44	家族相談支援論	1	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障害児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署（都庁）にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	本科目のねらいは、家族員の健康問題が家族にとってどのような問題であるのかを理解し、家族機能のアセスメント方法を習得することである。そのため、現場で経験した事例をもとに障がいをもつ子どもの子育て事例や産後うつ病の母子保健事例展開を教材を作成して教授している。
45	公衆衛生看護学実習 I	1	藤井 広美	保健師（在宅介護支援センター、市保健センター、労働衛生機関）、日本看護協会での勤務経験を有する。	行政の保健師として実務経験をもつ専任教員により、限られた臨地実習期間の中で学生が体験したことを整理し、リフレクションを行いながら学びを深めさせている。
46	看護研究(小児看護学分野)	4	吉野 純	小児病棟(3.5年)、NICU/GCU(1.5年)、小児外来(2年)において看護師として、病気の子どもの治療、日常生活援助、子どもと家族の精神面のサポートに携わる。地域のNPOの活動として、育児相談、発達相談を行っている。	研究で得られたインタビューや観察など臨床に関連した内容について、その言動の意味を捉えることは、臨床を経験していない者にとっては難しい場合がある。臨床を熟知している教員と一緒にデータを読みながら意味を解釈していくようにしている。
47	看護研究(精神看護学分野)	4	浅沼 奈美	大学病院(看護師)、保健所、本庁、精神保健福祉センター(保健師)での実務経験を有する。	保健・医療・福祉の立場から包括的な精神保健看護について、実際の臨床及び地域での課題をテーマに研究指導を行う。
48	クリティカルケア	2	伊藤 有美	高度救命救急センター、集中治療室勤務経験18年(看護師)公益財団法人日本看護協会認定集中ケア認定看護師資格取得	高度救命救急センターおよび集中治療室での実務では、重症患者家族に対して熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を提供した。これらの経験を活かし、重症患者に対して病態変化を予測した重篤化の予防と、廃用症候群などの二次的合併症の予防および回復のための早期リハビリテーションなど、科学的根拠と理論に基づいた看護を実践するために必要な知識および看護技術について、自身の看護経験を踏まえて講義する。
49	がん看護	2	量 倫子	大学病院で急性期～終末期のがん患者を対象に看護を実践した。	多種多様な治療を受けながら、がんと共に生活する対象への看護実践を具体的に提示し、学生自身がQOLの視点から患者への看護支援について考えることができるよう講義・演習を展開する。
50	応用看護学実習(高齢者看護学分野)	2	熊野 奈津美	都内大学病院にて看護師として5年間勤務、その後、訪問看護ステーションにて訪問看護師として勤務	実務経験を活かし、実習場でのケア提供場面に立ち会い解説を行うことで、学生の学習促進支援を実施している。
51	応用看護学実習(小児看護学分野)	2	吉野 純	小児病棟(3.5年)、NICU/GCU(1.5年)、小児外来(2年)において看護師として、病気の子どもの治療、日常生活援助、子どもと家族の精神面のサポートに携わる。地域のNPOの活動として、育児相談、発達相談を行っている。	臨地実習において、実際の患児の状態の把握やケア、子どもや家族とのかかわりについて、実務経験にもとづき具体的に指導を行っている。看護師の資格と経験から、実際の子どもへのケアを学生に見せることでモデルとしての役割も果たしている。また、受け持ち患児だけではなく、同様の問題や発達の特徴をもつ事例を教員の経験から話すことによって、イメージをつくる、視野を広げる、解決策を考える等につなげている。
52	応用看護学実習(精神看護学分野)	2	江波戸 和子	総合病院(看護師)、精神病院(看護師)、精神病院(専門看護師)	精神疾患患者と家族との関係や家族の心情、介護における困難点を理解し、日本の精神科医療・福祉の現状を踏まえつつ、家族に必要な看護を考察できるよう学びを深める。
53	応用看護学実習(助産学)	2	加藤 千晶	助産師として病院勤務16年(アドバンス助産師)の実務経験を有する。	実施した対象者への健康教育・セルフケア指導などが、地域(自宅)へ戻った後の対象者の生活から評価できる様、外来の健診時にも実習を行っている。また地域での子育て支援、行政等のサポートの活用など情報提供をし、対象者とともに考えるようにしている。



2019年度 杏林大学保健学部—実務経験のある教員による授業科目一覧—

看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
54	特別講義	2	浅沼 奈美	大学病院(看護師)、保健所、本庁、精神保健福祉センター(保健師)での実務経験を有する。	看護師お飛び保健師の臨床及び地域の視点を生かした知識を理解し、国家試験に向け学びを深める。
55	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ	2	藤井 広美	保健師(在宅介護支援センター、市保健センター、労働衛生機関)、日本看護協会での実務経験を有する。	市保健センターや在宅介護支援センターの保健師として実践してきた地区活動の経験を生かして、事例演習を取り入れながら体験的に公衆看護における支援技術を学べるよう展開する。
56	公衆衛生看護活動方法論Ⅱ	1	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障碍児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署(都庁)にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	相談支援における技術の習得のためには、リアリティのある事例を題材とした情報収集からアセスメント、支援計画の立案の過程とその過程での適切で具体的な相談技術の選択を行う。
57	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障碍児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署(都庁)にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	本科目は、ノーマライゼーションの実現における公衆衛生看護の役割地域における障害者(児)支援活動を学習する。地域での支援活動を具体的に検討するために、東京都保健所保健師として経験した事例を基に、未治療の精神障害者とその家族への受療支援や社会復帰支援、難病療養者とその家族への在宅移行支援や療養継続支援の演習事例を作成し、教材化している。
58	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障碍児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署(都庁)にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	本科目は、健康危機管理を中心とした科目である。健康危機管理では、収集すべき情報を判断し、収集された情報から原因の究明、被害拡大の防止策を立案できる力が求められる。そのため、実践的な演習が必須である。そのため本科目では、集団感染症対策事例について実際に経験した事例を基にしたケースメソッド事例を取り入れた演習を行っている。また、災害対策について東京都保健師として派遣された実際の阪神大震災での経験や三宅島全島避難の受け入れ支援を行った経験を踏まえて教授している。
59	地域診断演習	1	藤井 広美	保健師(在宅介護支援センター、市保健センター、労働衛生機関)、日本看護協会での実務経験を有する。	行政の保健師として実務経験をもつ専任教員により、地域における健康課題を明らかにしそれに対して組織的に解決する方法について、グループワークによる演習を中心として体験的に学習する授業を行っている。また、学生同士が体験を供するとともに、教員の実務経験を踏まえた助言を行うことで、現場に即した実践経験ができるよう授業を展開している。
60	公衆衛生看護管理	1	大木 幸子	・看護師として循環器疾患専門医療機関で急性期看護および退院支援を経験した。 ・保健師として、東京都の保健所で母子保健対策、精神保健対策、難病・重症心身障碍児の療養支援、感染症対策における個別支援活動および地域支援、事業化に携わった。また東京都の本庁部署(都庁)にて東京都全体の感染症対策・エイズ対策の疫学情報解析およびそれらの政策形成に携わった。	倫理的感受性の教授には、現実を想像し、事故の価値意識についてのリフレクションが重要である。公衆衛生看護活動における倫理的課題にかかわる相談場面事例、セルフネグレクト事例、健康危機管理事例を現場での事例を基に作成し演習を行っている。
61	助産学概論	2	加藤 千晶	助産師として病院勤務 16年(アドバンス助産師)及び助産師・看護部長(看護管理者)として病院勤務5年(認定看護管理者)の実務経験を有する。	助産師として業務の対象者の多様性や個性に対する実際の対応例の紹介をしている。また助産師として他職種との協働における実際例、さらには助産師としての責任範囲や、倫理的思考・態度について、実際の事例を用いながら考えることを行っている。
62	周産期医学Ⅰ	2	勝又 木綿子	杏林大学医学部付属病院の産婦人科に所属し、産科外来と産科病棟および総合周産期母子医療センターでの実務経験を有する。	妊娠期・分娩期・産褥期の正常な経過を看護するために必要な注意点を講義する。異常妊娠・異常分娩・産褥の異常を早期発見するための妊婦・産婦・褥婦の状態の変化の評価の仕方を教授する。
63	助産診断・技術学Ⅰ	1	加藤 千晶	助産師として病院勤務 16年(アドバンス助産師)及び新生児蘇生法「一次」コースインストラクターとしての実務経験を有する。	助産ケアを対象に提供する際、基礎看護技術等既習技術の確実な獲得を確認している。そのうえで妊産婦の特徴を踏まえ、工夫・応用することで、妊産婦に提供する(特に分娩中の産婦に対する)助産技術の習得ができる様、演習を行っている。
64	助産診断・技術学Ⅱ	2	鈴木 美和	助産師として、診療所、総合病院、大学病院、保健センターなどの臨床現場で、妊産婦・新生児への助産ケアだけでなく、遺伝相談や女性の健康相談などの実務経験を有する。	実務経験を基に、妊娠期の助産診断とケアについて事例を用いて授業を行い、必要な基本的知識・技術の習得ができるように演習を行っている。
65	助産診断・技術学Ⅲ	2	鈴木 美和	助産師として、診療所及び総合病院で、分娩助産経験を有する。	実務経験を基に、分娩期の助産診断とケアについて事例を用いて授業を行い、必要な基本的知識・技術の習得ができるように演習を行っている。
66	助産診断・技術学Ⅳ	1	絹川 朋美	総合周産期センター、地域周産母子センター、市民病院や助産院で助産師業務における実務経験を有する。	臨床経験を基にして作成した事例を基に、褥婦と新生児に対する助産診断とケアの実践を、看護過程の展開・健康教育の実施・助産技術の習得を教授する。

2019年度 杏林大学保健学部－実務経験のある教員による授業科目一覧－

看護学科看護学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
67	助産診断・技術学V	2	勝又 木綿子	杏林大学医学部付属病院の産婦人科勤務後に産科病院の病棟勤務と外来勤務の実務経験を有する。	現在の妊婦健康診査で行われる検査項目と結果の解釈と妊産婦への説明方法を講義している。異常分娩に行われる産科処置・産科手術の手技および患者と家族に対する説明と同意の実践について展開している。
68	地域助産活動論	1	松岡 恵	産科病棟・外来における助産師及び、幼稚園・小学校における養護教諭の実務経験を有する。	病院勤務における妊産婦とそのパートナーを対象とした個別、集団指導、幼児/学童を対象とした個別、集団指導の経験を加味しながら、助産師活動の一つの柱である地域における多様な対象への健康教育について、実際の場を想定した演習を展開している。
69	助産管理学	2	加藤 千晶	助産師として病院勤務 16年（アドバンス助産師）及び助産師・看護部長（看護管理者）として病院勤務 5年（認定看護管理者）の実務経験を有する。	組織の一員としての助産師として、組織の成長に貢献したその中で助産師としてのキャリア形成を、女性としての自分の人生設計も含めた中で考えるように促している。就職に際し、組織（病院）を選択する際の目安等について教授している。
70	助産学実習Ⅰ	1	加藤 千晶	助産師として病院勤務 16年（アドバンス助産師）の実務経験を有する。	正常経過が予測できる妊産婦、新生児に対しての助産ケアの実践を、学生が、「見て」「一緒に行って」「一人で実施できる」よう、段階を踏んで実習の場で臨床指導者と調整・協力して学生への指導を行っている。
71	助産学実習Ⅱ	7	鈴木 美和	助産師として、診療所、総合病院、大学病院、保健センターなどの臨床現場で、妊産婦・新生児への助産ケアだけでなく、遺伝相談や女性の健康相談などの実務経験を有する。	実務経験を基に、これまで学習してきた助産学の理論と技術を実践の場で統合し、周産期における助産ケアの基礎的能力が修得できるように展開している。
72	助産学実習Ⅲ	2	鈴木 美和	助産師として、診療所、総合病院、大学病院、保健センターなどの臨床現場で、妊産婦・新生児への助産ケアだけでなく、遺伝相談や女性の健康相談などの実務経験を有する。	実務経験を基に、施設における分娩介助だけでなく、地域における助産師活動の実践を学習させ、学生自身が自らの助産師としての将来像を描けるように実習を展開している。
73	助産学実習Ⅳ	1	加藤 千晶	助産師として病院勤務 16年（アドバンス助産師）及び新生児蘇生法「一次」コースインストラクターとしての実務経験を有する。	正常からの逸脱が予測できる対象者、あるいは逸脱している対象者への助産ケアを、直接学生と伴に計画し、実施し、評価をしている。また、事例を振り返り、妊産婦・新生児の状態の確認をしつつ、学生の課題をともに確認し明確化をしている。

合計単位数 136

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

看護学科看護養護教育学専攻

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	学校保健学概論	2	亀崎 路子	養護教諭としての勤務経験を有する。 児童生徒の定期健康診断などの業務に携わった。	児童生徒の定期健康診断の計画、実施、評価、改善の内容と方法および技術的基準について、養護教諭に必要な工夫点や留意点の実際を例示し、実践的な理解を促す授業を行っている。
2	看護学概論Ⅰ	1	荒添 美紀	大学病院にて、看護師として勤務した経験を有する。	看護と看護学、および人間に対する関心を高めることを目的とした看護学入門講座である。 看護の対象としての人間の理解を深め、看護の歴史、看護の本質、看護の機能と役割の学習を通して、専門職として「看護とは」なにかを探究することの重要性、看護職が今後めざすべき方向性について実際にあった具体的な事例などを通し、思考を深めていく。
3	看護学概論Ⅱ	2	荒添 美紀	大学病院にて、看護師として勤務した経験を有する。	看護学（看護理論）の重要な概念や看護の基礎となる知識を学び、自己の看護観の土台を形づくる。 看護の専門職者が行う看護と他との違いを理解し、専門職として「看護とは」なにかを探究することの重要性、看護の本質に対する考察を具体的な事例などを通し、自己の考えだけでなく、グループワークによっても思考を深めていく。
4	看護過程	1	荒添 美紀	大学病院にて、看護師として勤務した経験を有する。	看護過程は、看護の対象に最適な看護を提供するために用いる科学的思考であり、ツールである。看護過程を効果的・効率的に展開するためには、情報収集・アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価のステップの概念を正確に理解する必要がある。そのため、講義と共に事例を教員の助言を受けながら展開をし、自己での学習を進めたり、グループワークや助言を通して、視野を広げ思考を深めていく。
5	基礎看護学実習Ⅰ	1	荒添 美紀	大学病院にて、看護師として勤務した経験を有する。	実習病院や実習施設に行き、教員や指導者と共に、実際の医療・看護活動を見学または実施する。また、その体験を通して、人間理解を深め、患者の療養生活を理解し、さらに、さまざまな状況にある患者とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を体験的に学習する。
6	基礎看護学実習Ⅱ	2	荒添 美紀	大学病院にて、看護師として勤務した経験を有する。	実習病院に行き、一人の患者を受け持ち、患者の個別性を踏まえて、看護過程を展開する。 また、看護過程のステップの1つである実施では、教員や指導者と共に、受け持ち患者を理解したうえで、個別性のある看護を実践する。また、看護の実践を通し、看護者としての態度を学び看護の役割について理解を深める。
7	成人看護学概論	1	宿利 真由美	都立駒込病院、博慈会記念病院などで14年間、看護職として臨床で勤めた経験を有する。後半の7年間は師長等の管理職として勤務した経験を有する。	実際の援助場面や患者・家族の思い等への関心を高める支援の実際等を通して、成人看護の特徴及び看護職の役割ややり甲斐などについて看護倫理的視点に重きをおいて教授している。
8	成人看護学Ⅱ	2	西山 正恵	病院にて看護師として勤務した経験を有する。	慢性疾患の特徴や慢性疾患の看護方法を知識として指導。授業では看護の実施を経験から語り興味関心が持てるように工夫している。
9	アセスメントと援助技術Ⅱ	1	宿利 真由美	都立駒込病院、博慈会記念病院などで14年間、看護職として臨床で勤めた経験を有する。後半の7年間は師長等の管理職として勤務した経験を有する。	アセスメントを行う際の留意点や根拠の重要性などについて、安全・安楽を維持しながらどのように正確なデータを得るか、何が根拠となり得るか等、実際の援助場面を提示し学生に具体的なイメージを持たせながら教授している。
10	成人看護方法	1	西山 正恵	病院にて看護師として勤務した経験を有する。	実習に向けて患者および家族とのコミュニケーションの取り方や接し方、解剖生理から病態のとらえ方等、模擬患者を設定し理解するよう指導。症状、治療に伴うケアについて学生とともに演習をおこない指導。
11	成人看護学実習Ⅱ	3	西山 正恵	病院にて看護師として勤務した経験を有する。	患者および家族とのコミュニケーションの取り方や接し方、解剖生理から病態のとらえ方を受け持ち患者の看護を通して理解するよう指導。症状、治療に伴うケアについて学生とともに実施し指導する。
12	老年看護学概論	1	宿利 真由美	都立駒込病院、博慈会記念病院などで14年間、看護職として臨床で勤めた経験を有する。後半の7年間は師長等の管理職として勤務した経験を有する。	実際の援助場面や患者・家族支援の実際を通して、老年看護における看護職の役割ややり甲斐などについて、特に老年看護に特徴的な倫理的視点に重きをおいて教授している。
13	老年看護学	2	宿利 真由美	都立駒込病院、博慈会記念病院などで14年間、看護職として臨床で勤めた経験を有する。後半の7年間は師長等の管理職として勤務した経験を有する。	臨床経験の中心が腎臓内科や循環器内科という共に高齢者の多い分野であった。その経験を生かして高齢者看護において重要な、生活の捉え方や家族看護そしてそれらに基づいた治療から維持・共存への考え方やケアの進め方等について教授している。
14	老年看護方法	1	寺島 涼子	・臨床看護経験（整形外科・呼吸器内科病棟、一般外来） ・訪問看護経験（医療的ケアが必要な小児訪問看護、難病支援、認知症ケア、がん終末期の看護、要介護高齢者への看護、在宅での看取り支援、退院支援など）	老年期は加齢や疾病に伴うさまざまな変化により、日々の生活に影響が生じる。強みや残存機能を活かし、その人らしい生活の実現に向けた支援が老年看護では重要であり、実践でも同様の経験を持つ。生活機能を査定する「フィジカルアセスメント」や、強みを活かす「目標志向型思考の看護過程」で高齢者のその人らしい生活を支援する看護の基盤づくりのために、具体的な看護場面や事例を提示しながら演習を展開する。

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

看護学科看護養護教育学専攻

15	老年看護学実習Ⅰ	2	寺島 涼子	・臨床看護経験（整形外科・呼吸器内科病棟、一般外来） ・訪問看護経験（医療的ケアが必要な小児訪問看護、難病支援、認知症ケア、がん終末期の看護、要介護高齢者への看護、在宅での看取り支援、退院支援など）	介護老人保健施設は、認知症も含めた疾病や障害により要介護状態にある高齢者が入所している。要介護状態であっても強みや残存機能に着目し、その人らしい生活となること目指して支援することで廃用症候群の予防や、生活機能の維持・向上に繋がることを訪問看護で経験した。学生自身が体験する入居者との関わりや様々なケアの場を学生と共に紐解きながら、施設における老年看護高齢者について考える実習を展開する。
16	老年看護学実習Ⅱ	2	寺島 涼子	・臨床看護経験（整形外科・呼吸器内科病棟、一般外来） ・訪問看護経験（医療的ケアが必要な小児訪問看護、難病支援、認知症ケア、がん終末期の看護、要介護高齢者への看護、在宅での看取り支援、退院支援など）	急性期病院で療養生活を送る高齢者に対し、疾病や治療の理解、そして残存機能や強みを活かした生活支援と同時に、入院時から退院後の生活を見据えた看護が重要である。訪問看護で退院支援を行った経験から、具体的に収集すべき情報や看護過程について、フィジカルアセスメントやケアを実践する学生をサポートしながら学習支援を行い、急性期病院における老年看護について考える実習を展開する。
17	母性看護学概論	1	佐々木裕子		母性看護の対象である女性とその家族を理解するために、マタニティサイクルにある人々を取り巻く社会的背景、親になる上で抱える心理社会的課題、関連する施策と法律について学ぶ。また、将来の妊娠出産に備えた思春期の健康および産後から続く更年期女性への健康支援など、生涯を通じた女性の健康支援の基礎となる考え方を学ぶ。
18	母性看護学	2	佐々木裕子	助産師として総合病院（大阪赤十字病院）に勤務し、助産外来での妊婦健康診査、分娩介助、出産後から退院までの乳房管理、新生児のケア、退院後の育児にむけた保健指導等、一連のマタニティサイクルに関わる基礎的な業務を3年間行った。その後、分娩件数2000件/年以上の実績をもつ周産期医療・ケアに特化した施設（聖母病院）にて、出産後のケア、乳房ケア、健康教育、家庭訪問など、産後の移行期にある母子と家族の新しい役割取得を促す看護実践を4年、小児科で外来看護を1年、あわせて5年の経験を積んだ。その間、看護系短期大学・助産学専攻科の臨地実習指導者として3年間学生の実習指導を行った。	周産期にある母子と家族に必要な看護を提供するための思考過程を修得するために、その基礎となる、妊娠・分娩・産褥および新生児期の正常な経過と各期に起こりやすい異常についての基本的知識、正常から逸脱しないための看護について学ぶ。
19	母性看護学方法	1	佐々木裕子		周産期にある母子と家族が新しい役割に適應するために必要な援助をローリスク事例の看護過程の展開を通して考え、ケアプランを立案する。さらにプランに基づいて看護を提供するために必要な基本的スキルを習得する。
20	母性看護学実習	2	佐々木裕子		施設に入院中の出産後の母子を受け持ち、情報収集、アセスメント、実施、評価の看護過程の思考のプロセスと、そこから導き出された対象の個別性にあう看護実践の基本的スキルを習得する。また、退院後の課題に向けた健康教育プランの立案と実践のための教育的スキルを習得する。
21	小児保健学	2	太田 ひろみ	小児病院、精神専門病院にて看護師として勤務した経験を有する。	健康な子どもの成長発達を理解することを基本として、健康問題をもつ子どもの心身の状況を診査するために必要な専門的知識と技術を身につけ、子どもを含めた家族の生活の質を高めていくための実践的能力を修得する。また小児特有の疾患を持った患児の看護に特有の実践知を学び、看護判断能力を身に付ける。
22	養護実践学Ⅰ	2	亀崎 路子	養護教諭としての勤務経験を有する。 保健室経営などの業務に携わった。	保健室経営の具体的な方策例として、自身が現職の時に実践してきた生徒保健委員会活動を教材に、具体的な進め方、養護教諭の役割機能と指導方法を習得する授業を行っている。
23	養護実践学Ⅱ	2	亀崎 路子	養護教諭としての勤務経験を有する。 養護教諭の行う救急処置などの業務に携わった。	保健室において養護教諭が行う救急処置の経験例を提示しながら、養護教諭が陥りがちな落とし穴を踏まえて、内科的、外科的救急処置の知識と技術を習得する授業を行っている。
24	健康相談活動	2	亀崎 路子	養護教諭としての勤務経験を有する。 養護教諭の行う健康相談などの業務に携わった。	養護教諭が行う健康相談について、実際に遭遇した例や、解決に結びつけた事例を踏参考にしながら授業内容を構築し、養護教諭の健康相談に求められる対応を習得する授業を行っている。
25	発達障害と特別支援	2	石野 晶子	NICU・フォローアップ外来・小児科において看護師としての経験を有する。	本講義は、主に発達に課題がある児への支援に焦点を当てる。発達に課題がある要因は発達障害だけでなく、NICUを退院した医療的ケアが必要な児や先天性疾患や慢性疾患がある児等、多岐にわたる。発達支援は全ての児に共通の課題であり、特に医療依存度が高い児には特性に応じた支援が必要である。NICU・フォローアップ外来・小児科での実務経験を生かし、NICU入院中からの発達支援の重要性、乳幼児の療育や家族支援、地域支援の在り方を講義する。
26	領域別ゼミナール（看護系）	2	西山 正恵	病院にて看護師として勤務した経験を有する。	国家試験に向けての学習方法について指導するなかで授業（知識）と実習（実践）を統合することの意義を指導している。
27	看護研究	2	佐々木 裕子	臨床経験および自身の出産体験から生じた研究疑問を解決すべく、大学院修士・博士課程において、量的研究の手法を用いて親役割の移行に関わる研究、妊娠期からの親への移行促進プログラムの開発と介入研究を行い論文を作成し公表した。	臨地実習での看護実践を通して感じた疑問、例えば親への移行期にある人々への親役割取得を促す支援、将来の健康な妊娠出産につながる女性の健康支援などを研究課題とし、倫理的配慮に基づいた研究計画の立案、研究テーマに適した研究方法の選択、研究の実施、分析、論文作成、プレゼンテーションなど、一連の研究のプロセスを遂行できる基礎的能力を修得する。

合計単位数 45

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

診療放射線技術学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	診療画像検査技術学演習	1	坂本 岳士	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	2年時までに履修した画像解剖学、画像医学の知識を基礎とし、実際の頭部や胸腹部の代表的な疾患について、画像から得られる所見をレポートする。また画像検査の一連の流れについて、撮影に必要な一般撮影のポジショニングを訓練した上で仮定の患者を用いたシミュレーションを実施し、病院実習に向けた臨床能力の評価を行う。
2	医療画像情報学演習	1	中島 延淑	FUJIFILMで34年間の勤務経験（R&D画像技術部門26年、メディカル事業部8年）がある。また、勤務経験には米国3年、ドイツ5年の駐在を含む。	FUJIFILMでCR/DRを開発してきた技術者の視点から、診療放射線技師が取り扱うアナログ画像システム・デジタル系画像システムに関する問題演習と解説を行う。また、FUJIFILM製PACSを欧州市場に拡販してきた事業経験を踏まえ、医療システム情報学に関する問題演習と解説を行う。これらは診療放射線技師国家試験における「医用画像情報学」と「画像工学」の2分野をカバーする。
3	診療画像検査技術学Ⅰ	2	森 美加	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	症例を用い、カルテおよび患者の状況などから想定される疾患（胸部・腹部・骨領域）や正確な診断のために必要なエックス線撮影法および画像について臨床経験に基づき解説する。
4	診療画像検査技術学Ⅱ	2	坂本 岳士	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	まず、CTの概要として各部名称、装置の変遷、CT画像で用いられるCT値の意味、使用する専用用度等を提示する。その上で、臨床における検査方法について、ガイドラインを参照しながら講義する。次に、MRIの概要としてそれに用いられる様々な技術について解説を行ったうえで、臨床における撮像法について講義を行う。
5	診療画像検査技術学Ⅲ	2	小林 邦典	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	造影剤を用いたX線検査を中心に、造影剤の特性や用法、検査法について講義する。また、造影剤使用時に問題となる副作用について、初期症状や、重症化の過程、対処法を解説し、臨床経験に基づく副作用発生時の診療放射線技師の役割について教示する。
6	診療画像検査技術学Ⅳ	2	芝生 春菜	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	CT、MRI、救急撮影および超音波検査に関する検査の流れや撮影方法、画像について臨床経験に基づいて解説する。また、診療放射線技師としての患者接遇や緊急時対応について教示する。
7	診療画像検査技術学実習Ⅱ	1	坂本 岳士	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	診療放射線技師の主要業務である様々なモダリティを使用した撮影法に関して、基礎的な技術を実機を用いて体験する。また、診療放射線技師に必要な抜針・直腸バルーン挿入や病院スタッフとして必要な感染予防や接遇などについても学習する。実習の内容をレポートにまとめ提出する。
8	診療画像検査機器学Ⅰ	2	久原 重英	診療用放射線関連機器の開発業務に従事した経験を有する。	医用機器関連メーカーでの開発実務経験に基づき、各検出デバイス等の原理や性能、およびシステムとしての各画像検査機器の構造・動作の仕組みや画像再構成原理・性能評価パラメータ等について、典型的な例等に基づき解説する。
9	画像解剖学	2	黒木 一典	放射線科医としての臨床業務に従事した経験を有する。	正常画像解剖やバリエーション、解剖学の知識が病態の理解に役立つ事など放射線科医としての経験を踏まえ、common disease を中心に臨床的意義を強調しながら講義する。
10	核医学検査技術学Ⅱ	2	松友 紀和	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。	検査の実際や患者対応、画像の読み方などを臨床経験に基づいて解説する。また、最新の検査や治療、国際情勢についても教示する。
11	放射線治療技術学Ⅰ	2	只野 喜一	診療放射線技師としての臨床業務に従事した経験を有する。また、放射線治療装置メーカーのアプリケーションスペシャリスト業務に従事した経験を有する。	治療の流れや照射技術の種類とその実践的な利用法について臨床経験に基づいて解説する。また治療機器メーカーの経験から様々な施設における治療の現状について紹介する。
12	医療画像情報学Ⅰ	2	中島 延淑	FUJIFILMで34年間の勤務経験（R&D画像技術部門26年、メディカル事業部8年）がある。また、勤務経験には米国3年、ドイツ5年の駐在を含む。	X線フィルムを用いるアナログ画像システムに代わり、現在の医療現場ではCR/DRに代表されるデジタル画像システムが実用されている。FUJIFILMでCR/DRを開発してきた技術者の視点から①画質評価を行う上で把握しておきたい画像形成の原理、②画像システムの各要素が画質に与える影響について、アナログとデジタルを対比しながら、アナログX線画像システムの講義を行う。
13	医療画像情報学Ⅱ	2	中島 延淑	FUJIFILMで34年間の勤務経験（R&D画像技術部門26年、メディカル事業部8年）がある。また、勤務経験には米国3年、ドイツ5年の駐在を含む。	X線フィルムを用いるアナログ画像システムに代わり、現在の医療現場ではCR/DRに代表されるデジタル画像システムが実用されている。FUJIFILMでCR/DRを開発してきた技術者の視点から①画質評価を行う上で把握しておきたい画像形成の原理、②画像システムの各要素が画質に与える影響について、開発者しか知らない知見や苦労話を含めて、デジタルX線画像システムの講義を行う。
14	医療システム情報学	2	中島 延淑	FUJIFILMで34年間の勤務経験（R&D画像技術部門26年、メディカル事業部8年）がある。また、勤務経験には米国3年、ドイツ5年の駐在を含む。	CR/DRなどのデジタル画像システムと画像情報を保管管理する医用画像情報システム(PACS)が普及し、病院情報システム(HIS)や電子カルテシステムなどとも連携して、医療の質が大きく変化している。これからの放射線技師には、PACSに関する基本的な知識とPACSを使った放射線画像の運用・管理に対する役割が期待される。FUJIFILM製PACSを欧州市場に拡販してきた事業経験を踏まえ、医療システム情報学の講義を行う。

合計単位数 25

2019年度 杏林大学保健学部一実務経験のある教員による授業科目一覧一

臨床心理学科

No	科目名	単位数	科目担当者 (代表教員)	実務経験内容	実務経験内容に基づく授業内容 *200文字以内
1	人体の構造と機能及び疾病(疾病)	2	中島 亨	精神神経科医師として1987.6以降現在まで診療を続けている。	臨床実地経験をもとに症例などを加えて講義する。
2	精神疾患とその治療 I	2	中島 亨	精神神経科医師として1987.6以降現在まで診療を続けている。	精神疾患とその治療について臨床実地経験をもとに実際の症例などを加えて講義する。
3	精神疾患とその治療 II	2	中島 亨	精神神経科医師として1987.6以降現在まで診療を続けている。	精神疾患とその治療について臨床実地経験をもとに実際の症例などを加えて講義する。
4	臨床心理学概論	2	村部 妙美	精神科病院、高等教育学生支援機関での実務経験を有する。	臨床心理学は、心理的問題の解決や改善を支援する実践活動と、その活動を保証するための理論と研究に基づく実践的学問である。本講義では、公認心理師の活動に必要な基礎的な知識を概観する。心理的支援における連携・行動の在り方を、病院臨床や教育臨床などの現場体験を踏まえて概説する。
5	発達心理学	2	脇谷 順子	医療機関、教育機関におけるアセスメント、心理的支援、心理療法(多職種連携含む)などの実務経験を有する。	心の発達のはじまりの時期でもあり、その土台作りの時期でもあるという観点から左記の経験に基づいて乳児期と幼児期について講義する。心の発達について、生得的な側面、親子関係や家族を取り巻く社会などの環境的な側面、それらの相互作用について見ていく。臨床現場で出会う子どもや親子から見えてくる心の発達について、また、相談機関で出会う乳幼児や親子が呈する「問題」の心理的な意味についても講義の中で触れていく。
6	心理的アセスメント	2	村部 妙美	精神科病院、高等教育学生支援機関での実務経験を有する。	心理的支援において、クライアントの症状や状況を生物・心理・社会的モデルで理解することは、公認心理師の支援活動において必須である。左記の経験に基づいて医療・教育等の領域を中心にクライアント理解の為に診断面接やインテーク面接について学習する。更に知能検査、性格検査、神経心理学的検査などの背景にある理論を理解し、ケース・フォーミュレーションを取り入れ、施行法や評価の仕方、テストバッテリーや報告書の作成等について学習する。
7	心理学的支援法	2	脇谷 順子	医療機関、教育機関におけるアセスメント、心理的支援、心理療法(多職種連携含む)などの実務経験を有する。	心の発達のはじまりの時期でもあり、その土台作りの時期でもあるという観点から左記の経験に基づいて乳児期と幼児期について講義する。心の発達について、生得的な側面、親子関係や家族を取り巻く社会などの環境的な側面、それらの相互作用について見ていく。臨床現場で出会う子どもや親子から見えてくる心の発達について、また、相談機関で出会う乳幼児や親子が呈する「問題」の心理的な意味についても講義の中で触れていく。
8	健康・医療心理学	2	村部 妙美	精神科病院、高等教育学生支援機関での実務経験を有する。	医療領域において求められる心理療法や心理的アセスメント、SST、絵画療法などを含む集団精神療法などの体験や多職種と協働してクライアントの問題解決や症状の改善にむけての取り組みなどを紹介する。さらに臨床実践と理論の橋渡しをする。また健康とストレスの関係を踏まえ、マインドフルネスや健康心理学の領域について体験的に学習する。
9	福祉心理学	2	古川 佳子	産業、教育、福祉分野でのカウンセリングやコンサルテーション等の臨床心理学の知見を活かした業務の他、企業での人事労務系業務、制御系ソフトウェアプログラミングなどの経験を有する。	本講義では福祉現場における心理社会的課題および心理的支援について学んでいく。福祉領域では対象者への心理的支援を学ぶ際には、対象者が必要とする援助は生活全般に及ぶ点は特徴的であり、援助の基盤となる我が国の社会福祉制度の概要についての基本的理解も欠かせない。精神障害や知的障害、貧困問題についての担当教員の福祉現場での経験も伝えることで、対象者やその家族への多角的視点からの理解を促進する。
10	発達臨床心理学	2	櫻井 未央	公立教育相談室にて心理教育相談員として勤務した経験を有する。心理的問題や発達の課題を抱えた子どもたちと保護者に対し、心理相談・心理アセスメントを実施。	発達臨床心理学は、子どもたちの心身の発達を踏まえて人の心にアプローチすることを大前提としている。特に不登校や引きこもりなど現代の子どもたちの抱える課題の背景に、発達の視点を検討する必要性が高く、講義のなかでも重要項目である。これらの点については、実際の相談業務によって現代の子どもたちの様相に直接触れてきた経験が活かされると考える。
11	乳幼児・児童心理学	2	脇谷 順子	医療機関、教育機関におけるアセスメント、心理的支援、心理療法(多職種連携含む)などの実務経験を有する。	心理療法や心理支援の基盤となる諸理論について概観し、さまざまな心理的困難を抱えている相談者に対して、どのような支援が可能なのか、どのような支援が助けになるのかについて見ていく。左記の経験に基づいて具体的な臨床の場を想定しながら、公認心理師の活躍が期待されている医療、教育、福祉、産業、司法といった領域における心理的支援について講義していく予定である。
12	社会福祉学	2	古川 佳子	産業、教育、福祉分野でのカウンセリングやコンサルテーション等の臨床心理学の知見を活かした業務の他、企業での人事労務系業務、制御系ソフトウェアプログラミングなどの経験を有する。	社会保障や社会福祉の制度に関する基盤となる知識を身につけることを本講義の目的とする。社会福祉の歴史を概観し、現代社会の状況を俯瞰し、現代における社会保障や社会福祉は生活保護や高齢者の介護といった限定された人々や援助にとどまるものではないことを理解してゆく。雇用保険や労災保険、育児休業制度など働く人に直結する社会保障については、担当教員の一般企業や福祉分野での事例も紹介し実感に訴え理解の促進をはかる。
13	臨床心理学特別講義 I	2	古川 佳子	産業、教育、福祉分野でのカウンセリングやコンサルテーション等の臨床心理学の知見を活かした業務の他、企業での人事労務系業務、制御系ソフトウェアプログラミングなどの経験を有する。	臨床心理学やその関連領域における最新のトピックスについて取り扱い、学際的な講義を行う。学生が備えておくべき知識を高めるとともに、その実践的理解を深め、感性に磨きをかけるため、担当教員の実践に基づく事例も適宜紹介する。

合計単位数 26